



Cisco IP Phone 8800 シリーズ ユーザ ガイド

初版：2015 年 11 月 25 日

最終更新：2015 年 12 月 08 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。本機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信障害を引き起こす場合があります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 機器と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに機器を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記供給者は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、あるいは、取り扱い、使用、または取引慣行によって発生するあらゆる保証に関して、明示的、黙示的を問わず責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)



目次

電話機 1

Cisco IP Phone 8800 シリーズ 1

新機能および変更された機能に関する情報 2

ファームウェア リリース 11.0 の新機能 2

電話機のセットアップ 3

ハンドセット レストの調整 (Adjust the Handset Rest) 3

電話機の設置角度の調整 4

ネットワークへの接続 4

Wi-Fi ネットワークへの接続 5

VPN への接続 5

VPN を使用するための電話機のセットアップ 6

Expressway への接続 6

カメラ付き電話機のアクティブ化 7

ケーブル ロックで電話機を固定する 7

電話機のアクティブ化とサインイン 7

電話機へのサインイン 8

別の電話機から内線にサインインする 8

別の電話機で内線からサインアウトする 9

セルフ ケア ポータル 9

短縮ダイヤル番号 10

ボタンとハードウェア 11

ナビゲーション 13

ソフトキー、回線ボタン、機能ボタン 14

電話スクリーンの機能 15

電話スクリーンのクリーニング 15

電話回線とコールの違いについて 15

USB ポート 16

携帯端末の充電	16
Bluetooth と電話機	17
省電力	18
電話機の電源を入れる	18
追加のヘルプと情報	18
アクセシビリティ機能	19
トラブルシューティング	19
電話機についての情報を取得する	19
通話品質の問題を報告する	20
電話機のすべての問題を報告する	20
接続が失われた場合	21
シスコ製品（ハードウェア）に関する 1 年間の限定保証規定	21
コール	23
コールの発信	23
コールの発信	24
スピーカーフォンによるコールの発信	24
ヘッドセットによるコールの発信	24
URI ダイアルによるコールの発信	24
番号をリダイアルする	25
短縮ダイアル	25
短縮ダイアル ボタンを使用したコールの発信	25
短縮ダイアル コードを使用したコールの発信	26
ファストダイアル ボタンを使用したコールの発信	26
国際番号のダイアル（Dial an International Number）	26
連絡先が通話可能な場合に連絡を受け取る	27
課金コードまたは承認コードを必要とするコール	27
安全なコール	28
コールへの応答	28
コールに応答する	28
コール待機への応答	28
コールの拒否	28
応答不可をオンにする	29

同僚の電話機に応答する（コール ピックアップ）	29
グループ内のコールに応答する（ピックアップ）	29
別のグループからのコールの応答（グループ ピックアップ）	30
関連するグループからのコールの応答（その他のピックアップ）	30
ハント グループ内のコールに応答する	30
ハント グループへのログインとハントグループからのログアウト	31
ハント グループでの通話キューの表示	31
コールに自動応答する	32
不審なコールのトレース	32
ビデオ コール	32
ビデオコールの発信	33
ビデオの停止	33
電話機表示とビデオ表示の切り替え	33
ピクチャーインピクチャーの位置を調整する	34
ビデオ コールとセキュリティ	34
音声をミュートにする	34
コールの保留	34
通話を保留にする	35
長時間にわたって保留されているコールに応答する	35
アクティブ コールと保留コールの切り替え	35
コール パーク	35
コール パークを使用してコールを保留にする	36
コール パークを使用して保留中コールを取得する	36
処理されたダイレクト コール パークを使用してコールを保留状態にする	36
処理されたダイレクト コール パークを使用して保留中コールを取得する	37
手動ダイレクト コール パークを使用してコールを保留状態にする	37
手動ダイレクト コール パークを使用して保留中コールを取得する	37
コールの転送	38
別の担当者にコールを転送する	38
電話会議とミーティング	39
コールに別のユーザを追加する	39
会議を確立する前にコール間を切り替える	39

会議参加者の表示と削除	40
スケジュール済み会議コール（ミーティング）	40
ミーティング会議の開催	40
ミーティング会議への参加	40
インターコム コール	41
インターコム コールの発信	41
インターコム コールへの応答	41
通話の監視と録音	42
監視されたコールの設定	42
通話の録音	42
優先コール	43
プライオリティ コールを発信する	44
プライオリティ コールに応答する	44
別のコールで通話している間にプライオリティ コールに応答する	44
複数の回線	45
最も古いコールから応答	45
電話機ですべてのコールを表示	45
非常に重要なコール	45
回線フィルタを使用して特定の回線のコール通知を表示する	46
回線フィルタの作成	46
回線フィルタの使用	46
回線フィルタの変更	47
共有回線	47
[共有回線（Shared Line）] のコールに参加する	47
共有回線のコールに参加する前に通知を受け取る	48
共有回線でのプライバシーの有効化	48
モバイル デバイスとデスクの電話機	48
Intelligent Proximity を使用した通話	49
モバイル デバイスとデスク電話機のペアリング	49
接続された携帯端末の切り替え	50
携帯端末の削除	50
ペアリングされた Bluetooth デバイスの表示	50

携帯電話の Intelligent Proximity	51
モバイル コール着信を処理する	51
モバイル コールの発信	51
デスク電話機とモバイル デバイスの間でコールを移動する	51
携帯端末の音量の調整	52
デスクの電話機でモバイルの連絡先を表示する	52
モバイル デバイス連絡先リストに連絡先を保存する	52
モバイル デバイス連絡先リストで連絡先を削除する	53
デスクの電話機でモバイル通話履歴を表示する	53
タブレットのインテリジェント プロキシミティ	53
タブレットからデスクの電話機に音声を移動する	54
デスクの電話機からタブレットに音声を移動する	54
モバイル コネクトを使用した通話	54
モバイル コネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)	55
デスクの電話機から携帯電話にコールを移動する	55
携帯電話からデスクの電話機にコールを移動する	55
携帯電話からデスクの電話機にコールを転送する	56
連絡先	57
社内ディレクトリ	57
社内ディレクトリの連絡先の検索とダイヤル	57
[パーソナルディレクトリ (Personal Directory)]	58
パーソナルディレクトリのサインインおよびサインアウト	58
パーソナルディレクトリに新しい連絡先を追加する	59
パーソナルディレクトリの連絡先の検索	59
パーソナルディレクトリの連絡先に発信する	60
連絡先にファスト ダイヤル コードを割り当てる	60
ファストダイヤル コードを使用した連絡先への発信	61
パーソナルディレクトリの連絡先を編集する	61
パーソナルディレクトリから連絡先を削除する	62
ファスト ダイヤル コードの削除	62
Cisco Web Dialer	62
通話履歴	63

コール履歴リスト	63
最近の通話履歴を表示する	63
最近の通話履歴に戻る	64
最近の通話履歴を消去する	64
コール レコードの削除	65
ボイスメール	67
ボイスメール アカウント	67
新着メッセージ インジケータ	67
ボイスメールへのアクセス	68
ビジュアル ボイスメール (Visual Voicemail)	68
音声ボイスメールへのアクセス	68
アプリケーション	69
使用できるアプリケーション	69
アクティブ アプリケーションの表示	69
アクティブ アプリケーションの切り替え	70
アクティブ アプリケーションの終了	70
設定	71
壁紙の変更	71
呼出音の変更	72
スクリーンの明るさの調整	72
コントラストの調整	72
フォント サイズの変更	73
電話機の名前の変更	73
ヘッドセット フィードバックの調整	74
ビデオ設定	74
ビデオの明るさの調節	75
ビデオ帯域幅の調節	75
ビデオ コールをコンピュータで表示する	75
通話の音量を調整する	76
着信音の音量を調整する	76
アクセサリ	77
サポートされるアクセサリ	77

電話機に関連付けられたアクセサリを表示する	78
ヘッドセット	79
標準ヘッドセット	79
標準ヘッドセットの接続	79
ワイドバンド標準ヘッドセットの設定	79
USB ヘッドセット	80
USB ヘッドセットの接続	80
Bluetooth ヘッドセット	80
Bluetooth をオンまたはオフにする	81
Bluetooth ヘッドセットの追加	82
Bluetooth ヘッドセットの切断	82
Bluetooth ヘッドセットの削除	82
Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール	83
Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール ボタンとハードウェア	83
キー拡張モジュールでのコールの発信	86
キー拡張モジュール画面の明るさの調整	87
製品の安全性とセキュリティ	89
安全性とパフォーマンスに関する情報	89
停電	89
外部デバイス	89
Bluetooth 無線ヘッドセットのパフォーマンス	90
電源について	90
ネットワーク輻輳時の電話機の挙動 (Phone Behavior During Times of Network Congestion)	90
FCC 準拠宣言	91
FCC Part 15.21 に関する宣言	91
FCC RF 被曝に関する宣言	91
FCC レシーバおよびクラス B デジタル装置に関する宣言	91
シスコ製品のセキュリティの概要	91
重要なオンライン情報	92



第 1 章

電話機

- [Cisco IP Phone 8800 シリーズ, 1 ページ](#)
- [新機能および変更された機能に関する情報, 2 ページ](#)
- [電話機のセットアップ, 3 ページ](#)
- [電話機のアクティブ化とサインイン, 7 ページ](#)
- [セルフ ケア ポータル, 9 ページ](#)
- [ボタンとハードウェア, 11 ページ](#)
- [省電力, 18 ページ](#)
- [追加のヘルプと情報, 18 ページ](#)

Cisco IP Phone 8800 シリーズ

Cisco IP Phone 8811、8841、8845、8851、8851NR、8861、および 8865 は、簡単に操作できるハイセキュリティの音声通信を提供します。



393043

表 1: Cisco IP Phone 8800 シリーズの主な特徴

機能	8811	8841	8845	8851	8851NR	8861	8865
画面	グレイスケール	色	色	色	色	色	色
USB ポート	0	0	0	1	1	2	2
内蔵カメラ	なし	なし	可能	なし	なし	なし	可能
Wi-Fi	なし	なし	なし	なし	なし	可能	可能
Bluetooth	なし	なし	可能	可能	なし	可能	可能
Cisco Intelligent Proximity	なし	なし	可能	可能	なし	可能	可能

電話機を使用するには、電話機をネットワークに接続して、コール制御システムへの接続を設定する必要があります。コール制御システムに応じて、さまざまな機能が電話機でサポートされます。管理者が電話機をセットアップする方法によっては、すべての機能を電話機で使用できるとは限りません。

新機能および変更された機能に関する情報

以下のセクションの情報を参照すると、マニュアルの変更内容を理解できます。各セクションには、主な変更点が記載されています。

ファームウェア リリース 11.0 の新機能

表 2: ファームウェア リリース 11.0 に合わせた Cisco IP Phone 8800 ユーザガイドの改訂

リビジョン	更新されたセクション
特定のフォント サイズについての記述を削除	フォント サイズの変更 , (73 ページ) .
割り込み/マージ サポートの改善に関して次のセクションを更新:	[共有回線 (Shared Line)] のコールに参加する , (47 ページ)
問題報告ツールサポートの改善に関して次のセクションを改訂:	電話機のすべての問題を報告する , (20 ページ)

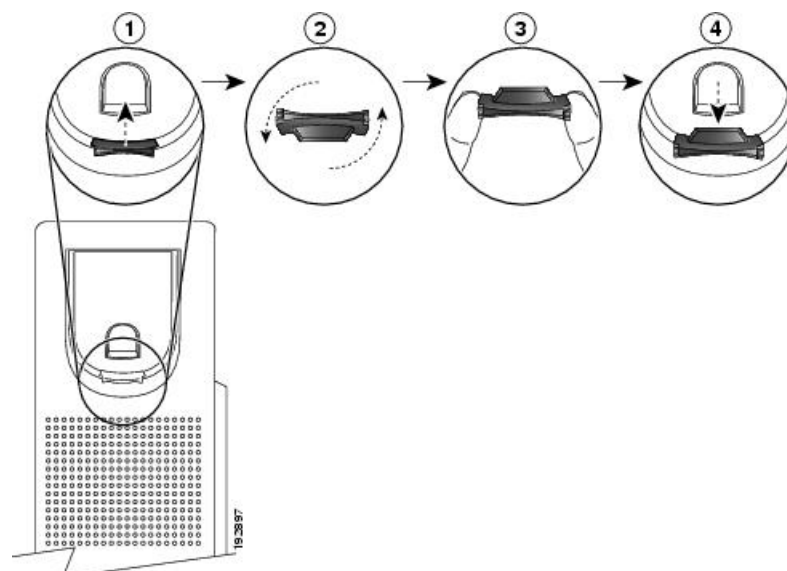
リビジョン	更新されたセクション
サイレント（DND）に関して次のセクションに新しいアイコンを追加：	応答不可をオンにする、 （29 ページ）
VM オーディオサポートに関して次のセクションを更新：	ビジュアル ボイスメール（Visual Voicemail） 、 （68 ページ）

電話機のセットアップ

通常、電話機のセットアップとネットワーク接続は管理者が行います。お手元の電話機のセットアップと接続が完了していない場合は、管理者に問い合わせてください。

ハンドセット レストの調整（Adjust the Handset Rest）

電話機が壁に取り付けられている場合、またはハンドセットが受け台からすぐに滑り落ちる場合には、受話器が受け台から滑り落ちないようにハンドセット レストを調整する必要があります。



手順

-
- ステップ 1 受け台からハンドセットを外し、ハンドセット レストからプラスチック タブを引き出します。
 - ステップ 2 [タブ (tab)] を 180 度回します。
 - ステップ 3 角のノッチが手前になるように、2 本指で [タブ (tab)] を持ちます。
 - ステップ 4 [タブ (tab)] を受け台のスロットに合わせ、[タブ (tab)] をスロット内に均等に押し込みます。回した [タブ (tab)] の上部から突起が出ている状態になります。
 - ステップ 5 ハンドセットをハンドセット レストに戻します。
-

電話機の設置角度の調整

電話機の角度を変えることで画面のグレアを抑えることができます。Cisco IP Phone 8845 および 8865 の場合、カメラの映像を適切にするために角度を変える必要が生じることがあります。

フットスタンドタブは柔軟な材質で作られています。

手順

-
- ステップ 1 一方の手で受け台の受話器を抑えます。
 - ステップ 2 もう一方の手でフットスタンドを動かして角度を変更します。
 - ステップ 3 (任意) キー拡張モジュールのフットスタンドを調節して、電話機とキー拡張モジュールを安定させます。
 - ステップ 4 (任意) カメラの角度を確認するには、[セルフビュー (Self-view)] を押します。
-

ネットワークへの接続

電話機は、電話ネットワークに接続される必要があります。

- 有線接続：イーサネット ケーブルを使用して電話機をネットワークにつなげます。
- ワイヤレス接続：Wi-Fi を使用して電話機をワイヤレス アクセス ポイントに接続します。
- バーチャル プライベート ネットワーク (VPN)：電話機がネットワークに接続された後、保護されたネットワークに自動接続するようセットアップされます。
- Expressway を介したモバイルおよびリモートアクセス：電話機がネットワークに接続された後、Expressway サーバに自動接続するようセットアップされます。

Wi-Fi ネットワークへの接続

Cisco IP Phone 8861 と 8865 は Wi-Fi ネットワークへのアクセスが可能です。Wi-Fi ネットワークで電話機を使用するには、電源アダプタを使って電話機に電力を供給する必要があります。

はじめる前に

Wi-Fi アクセスを有効にするには、管理者がコール制御システムで設定を行う必要があります。

手順

-
- ステップ 1 電話機がイーサネットにつながっている場合は、イーサネット ケーブルを取り外します。
 - ステップ 2 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 3 [管理者設定 (Admin settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network setup)] > [Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)] > [Wi-Fi ログインアクセス (Wi-Fi sign in access)] まで移動します。
 - ステップ 4 [ワイヤレス (Wireless)] に移動して、[On] を押します。
 - ステップ 5 [Wi-Fi ログインアクセス (Wi-Fi sign in access)] に移動して、[On] を押します。
 - ステップ 6 [適用 (Apply)] を押して変更内容を保存するか、[復元 (Revert)] を押して変更をキャンセルします。
-

VPN への接続

次の 2 つの方法のいずれかで VPN に接続します。

- 資格情報（ユーザ名とパスワード、またはパスワードのみ）を入力する
- 証明書を使用する

電話機に証明書がすでにインストールされている場合は、何もする必要がありません。電話機は自動的に VPN に接続されます。

手順

-
- ステップ 1 要求されたら、VPN 資格情報を入力してください。
 - ステップ 2 [サインイン (Sign-in)] を選択します。
-

VPN を使用するための電話機のセットアップ

はじめる前に

この手順を完了するには、有効な TFTP サーバアドレスが必要です。この情報が不明な場合は、管理者に問い合わせてください。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [管理者設定 (Admin Settings)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかのメニュー項目を選択します。
- イーサネットに接続されているすべての電話機 : [イーサネットのセットアップ (Ethernet setup)]
 - Wi-Fi を使用する Cisco IP Phone 8861 および 8865 ユーザ : [Wi-Fiクライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)]
- ステップ 4** [IPv4のセットアップ (IPv4 Setup)] を選択します。
- ステップ 5** [代替TFTP (Alternate TFTP)] に移動し、[オン (On)] を選択します。
- ステップ 6** [TFTPサーバ1 (TFTP server 1)] を選択します。
- ステップ 7** [TFTPサーバ1 (TFTP server 1)] フィールドに TFTP サーバアドレスを入力します。
- ステップ 8** [適用 (Apply)] を押します。
- ステップ 9** [続行 (Continue)] を押します。
- ステップ 10** [終了 (Exit)] を押します。
-

Expressway への接続

Expressway 経由モバイルおよびリモートアクセスを使用すると、オフィス外で勤務しているときでも社内ネットワークに接続できます。

オフィス外にいることを電話機が検出すると、Expressway を介して社内ネットワークに接続するよう促します。

はじめる前に

これまでオフィスまたはVPNで電話機を使用してきた場合は、Expresswayに接続する前にサービスモードをリセットしてください。

Expressway 経由モバイルおよびリモートアクセスにオンプレミスで接続する必要がある場合、電話機を再起動し、ガイダンスに従って [選択 (Select)] を押します。

手順

-
- ステップ 1** [ウェルカム (Welcome)] 画面でアクティベーション コードまたはサービス ドメインを入力します。
 - ステップ 2** ユーザ名とパスワードを入力します。
 - ステップ 3** [送信 (Submit)] を押します。
-

カメラ付き電話機のアクティブ化

電話機にカメラが付いている場合、電話機をアクティベートするために QR コードをスキャンするよう促されます。登録プロセス中に電話機がサービス ドメインを検出した場合、Expressway サインイン画面を表示できます。

手順

カメラがオンのときに QR コードをスキャンしてください。
正常にスキャンされると、電話機がサーバに登録されます。

ケーブルロックで電話機を固定する

最大 20 mm 幅のラップトップ ケーブルロックで電話機を固定することができます。

手順

-
- ステップ 1** ケーブルロックのループの端を折り返し、電話機の固定場所となる物の周りに巻き付けます。
 - ステップ 2** ロックをケーブルのループの端まで通します。
 - ステップ 3** ケーブルロックのロックを解除します。
 - ステップ 4** ロック ボタンを押したままにして、ロックの歯の位置を合わせます。
 - ステップ 5** ケーブルロックを電話機のロック スロットに挿入し、ロック ボタンを放します。
 - ステップ 6** ケーブルロックをロックします。
-

電話機のアクティブ化とサインイン

場合によっては、電話機をアクティブ化したり、電話機にサインインしたりする必要があることがあります。電話機に対してアクティブ化を一度行うことで、電話機がコール制御システムに接続されます。サインインおよびアクティベーションの資格情報はシステム管理者より与えられます。

電話機へのサインイン

はじめる前に

ユーザ ID と PIN（またはパスワード）を管理者から入手します。

手順

-
- ステップ 1 [ユーザ ID (Userid)] フィールドにユーザ ID を入力します。
 - ステップ 2 [PIN] または [パスワード (Password)] フィールドに PIN またはパスワードを入力します。
 - ステップ 3 [送信 (Submit)] を押します。
-

別の電話機から内線にサインインする

Cisco Extension Mobility を使用すると、ネットワーク内の別の電話機にサインインして、それを自分の電話機と同じように動作させることができます。サインインした後、その電話機には、電話回線、機能、設定済みサービス、ウェブベースの設定などの自分のユーザ プロファイルが適用されます。

はじめる前に

ユーザ ID と PIN（暗証番号）を管理者から取得します。

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] を選択します（名前は異なる場合があります）。
 - ステップ 3 ユーザ ID と PIN を入力します。
 - ステップ 4 プロンプトが表示されたら、デバイス プロファイルを選択します
-

別の電話機で内線からサインアウトする

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] を選択します。
- ステップ 3** [はい (Yes)] を押してログアウトします。
-

セルフ ケア ポータル

コンピュータからアクセス可能なセルフ ケア ポータル Web サイトで、いくつかの電話機設定をカスタマイズできます。セルフ ケア ポータルの URL、ユーザ ID およびパスワードは管理者から与えられます。

セルフ ケア ポータルでは、電話機の機能、回線設定、電話サービスを制御できます。

- 電話機の機能には短縮ダイヤル、サイレント機能、個人用アドレス帳などがあります。
- [回線 (Line)] の設定は、電話機の特定の電話回線 (電話番号) に影響します。回線設定には、不在転送、ビジュアルおよびオーディオメッセージインジケータ、呼出音のパターン、その他の回線固有の設定が含まれます。
- 電話機サービスには、特別な電話機の機能、ネットワークデータ、Web ベースの情報 (株式相場、映画情報など) が含まれます。電話機で電話サービスにアクセスするには、その前にセルフ ケア ポータルを使ってそのサービスに登録する必要があります。

また、Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールが電話機に接続されている場合は、拡張モジュールボタンで短縮ダイヤルその他の電話サービスを設定することもできます。

セルフ ケア ポータルを使って設定できるいくつかの機能を次の表に示します。詳細については、ご使用のコール制御システムに関するセルフ ケア ポータルのマニュアルを参照してください。

機能	説明
コール転送	電話機でコール転送が有効になっている場合に、コールを受信する番号を指定します。セルフ ケア ポータルを使用すると、より複雑なコール転送機能 (回線がビジー状態の場合の動作など) をセットアップできます。

機能	説明
追加の電話機	デスクの電話機と同じ電話番号を使ってコールを発信/受信できるように、追加の電話機（携帯電話など）を使用すること指定します。また、特定の番号からのコールが携帯電話に送信されるのを制限または許可するために、連絡先のブロックや選好を定義することもできます。また、追加の電話機をセットアップするときには、次の機能も設定できます。 • シングル ナンバー リーチ：デスクの電話機に着信したとき、追加の電話機の着信音を鳴らすかどうかを指定します。 • モバイル コール：追加の電話機が携帯電話である場合、モバイル コールからデスクの電話機に、またはデスク電話のコールから携帯電話に転送されるようセットアップできます。
短縮ダイヤル	短縮ダイヤル番号に電話番号を割り当てると、その相手にすばやくコールをかけることができます。

関連トピック

[モバイル コネクトを使用した通話, \(54 ページ\)](#)

[短縮ダイヤル, \(25 ページ\)](#)

[コールの転送, \(38 ページ\)](#)

短縮ダイヤル番号

電話機で番号をダイヤルする際には、一連の数字（ディジット）を入力します。短縮ダイヤル番号を設定する際には、コールに必要なすべてのディジットを短縮ダイヤル番号に含める必要があります。たとえば、外線と通話するために最初に 9 をダイヤルする必要がある場合は、9 に続けて相手の番号を入力します。

また、ダイヤルする他のディジットを番号に追加することもできます。追加のディジットの例として、会議アクセスコード、内線、ボイスメールパスワード、承認コード、課金コードなどがあります。

ダイヤル文字列に含めることができる文字はつぎのとおりです。

- 0 ～ 9
- ポンド (#)
- アスタリスク (*)
- カンマ (,) : これは一時停止文字であり、2 秒間遅延した後でダイヤルを続けます。複数のカンマを連続させることができます。たとえば、2 個のカンマ (,,) は、4 秒間のポーズを表します。

ダイヤル文字列の規則は次のとおりです。

- ダイヤル文字列の各部分を分離するには、カンマを使用します。
- 短縮ダイヤル文字列では、常に課金コードの前に承認コードを含める必要があります。
- 文字列内の承認コードと課金コードの間には 1 つのカンマが必要です。
- 承認コードおよび追加のディジットを含む短縮ダイヤルには、短縮ダイヤルラベルが必要です。

短縮ダイヤルを設定する前に、ディジットを手動で少なくとも 1 回ダイヤルしてみて、内容が正しいことを確認してください。



(注) 短縮ダイヤルの承認コード、課金コード、および追加のディジットは、電話機の通話履歴に保存されません。短縮ダイヤルを使って通話先に接続した後で [リダイヤル (Redial)] を押すと、必要な承認コード、課金コード、または追加のディジットを手動で入力するよう求められます。

例

承認コードと課金コードが必要な状況で、特定の内線の相手に電話するために短縮ダイヤル番号をセットアップするには、次の要件を考慮してください。

- 外線の 9 をダイヤルする必要があります。
- 通話先の番号は 5556543 です。
- 承認コード 1234 を入力する必要があります。
- 課金コード 9876 を入力する必要があります。
- 4 秒ほど待機します。
- 電話がつながった後、内線 56789# をダイヤルする必要があります。

このシナリオでは、短縮ダイヤル番号は 95556543,1234,9876,,56789# となります。

関連トピック

[課金コードまたは承認コードを必要とするコール](#), (27 ページ)

ボタンとハードウェア

Cisco IP Phone 8800 シリーズには、次に示す 2 つの異なるハードウェア タイプがあります。

- Cisco IP Phone 8811、8841、8851、8851NR、および 8861：カメラなし
- Cisco IP Phone 8845 および 8865：内蔵カメラ付き

次の図は、Cisco IP Phone 8845 を示しています。

図 1 : Cisco IP Phone 8845 のボタンおよびハードウェア



1	ハンドセット、および ライトストリップ付き ハンドセット	着信コール（赤く点滅）または新しいボイス メッセージ（赤く点灯）があるかどうか確認できます。
2	カメラ Cisco IP Phone 8845 およ び 8865 のみ	ビデオ コールのためにカメラを使用します。
3	プログラム可能な機能 ボタンと回線ボタン	 電話回線、機能、コールセッションにアクセスできます。 詳細については、 ソフトキー 、 回線ボタン 、 機能ボタン 、（ 14 ページ ）を参照してください。
4	ソフトキー ボタン	 機能およびサービスにアクセスできます。 詳細については、 ソフトキー 、 回線ボタン 、 機能ボタン 、（ 14 ページ ）を参照してください。

5	[戻る (Back)]、ナビゲーション クラスタ、および [リリース (Release)]	[戻る (Back)]  : 前の画面またはメニューに戻ります。 ナビゲーション クラスタ  ナビゲーション リングと [選択 (Select)] ボタン : メニューをスクロールしたり、項目を強調表示したり、強調表示されている項目を選択したりすることができます。 [リリース (Release)]  : 接続されているコールまたはセッションを終了します。
6	[保留/再開 (Hold/Resume)]、[会議 (Conference)]、および [転送 (Transfer)]	[保留/再開 (Hold/Resume)]  : アクティブ コールを保留にしたり、保留中のコールを再開したりします。 [会議 (Conference)]  : 電話会議を作成します。 [転送 (Transfer)]  : コールを転送します。
7	[スピーカーフォン (Speakerphone)]、[ミュート (Mute)]、および [ヘッドセット (Headset)]	[スピーカーフォン (Speakerphone)]  : スピーカフォンのオン/オフを切り替えます。 スピーカーフォンがオンになっているとき、ボタンは点灯しています。 [ミュート (Mute)]  : マイクロフォンのオン/オフを切り替えます。 マイクロフォンが [ミュート (Mute)] になっているとき、ボタンは点灯しています。 [ヘッドセット (Headset)]  : ヘッドセットのオン/オフを切り替えます。 ヘッドセットがオンになっているときは、ボタンが点灯します。
8	[連絡先 (Contacts)]、[アプリケーション (Applications)]、および [メッセージ (Messages)]	[連絡先 (Contacts)]  : 個人用ディレクトリや社内ディレクトリにアクセスします。 [アプリケーション (Applications)]  : 通話履歴、ユーザ設定、電話機の設定、電話機のモデル情報にアクセスします。 [メッセージ (Messages)]  : ボイス メッセージング システムを自動的にダイヤルします。
9	[音量 (Volume)] ボタン :	 ハンドセット、ヘッドセット、スピーカフォンの音量 (オフフック) および呼出音の音量 (オンフック) を調節します。

ナビゲーション

ナビゲーション クラスタの外側のリングを使用して、メニューをスクロールします。 ナビゲーション クラスタの内側の [選択 (Select)] ボタンを使用して、メニュー項目を選択します。



メニューの各項目にはインデックス番号があります。キーパッドでインデックス番号を入力することにより、メニュー項目を選択できます。

ソフトキー、回線ボタン、機能ボタン

電話機で対話式に機能を操作する方法がいくつかあります。

- スクリーンの下にあるソフトキーを使用すると、電話機の操作が容易になります。現在、どんな操作を行っているかに応じて、その内容が変化します。[...] ソフトキーは、追加のソフトキーが使用可能であることを示します。
- スクリーンの両側にある機能ボタンと回線ボタンを使用すると、電話機能および電話回線にアクセスできます。
 - 機能ボタンを使用すると、回線のコールを表示したり、短縮ダイヤルなどの機能にアクセスできます。
 - 回線ボタンを使用すると、コールに応答したり、保留中のコールを再開したりできます。アクティブ コールに対して使用されないときは、不在着信の表示などの電話機能を開始できます。

機能ボタンと回線ボタンの点灯は、次のようなステータスを示します。

-  緑、点灯：アクティブ コールまたは双方向のインターコム コール
-  緑、点滅：保留中のコール
-  オレンジ、点灯：プライバシー機能が使用中、単方向インターコム コール、サイレント (DND) 機能がアクティブ、またはハント グループにログイン中
-  オレンジ、点滅：着信コールまたは復帰コール
-  赤、点灯：リモート回線の使用中（共有回線または回線ステータス）
-  赤、点滅：リモート回線が保留中

管理者は、いくつかの機能をソフトキーまたは機能ボタンとして設定できます。さらに、ソフトキーや関連するハード ボタンを使っていくつかの機能にアクセスすることもできます。

電話スクリーンの機能

電話スクリーンには、電話番号、アクティブコールと回線のステータス、ソフトキー、短縮ダイヤル、発信履歴、電話メニューのリストなど、その電話機に関する情報が表示されます。スクリーンにはヘッダー行、中央セクション、フッター行の3つのセクションがあります。

図 2 : Cisco IP Phone 8800 の画面



スクリーンの最上部にはヘッダー行があります。ヘッダー行には、電話番号と現在の日時のほかに、さまざまなアイコンが表示されます。該当する機能がアクティブであるときに、アイコンが表示されます。

電話スクリーンの中央部には、電話機の回線と機能ボタンに関連した情報が表示されます。

スクリーン下部にはソフトキーラベルの行があります。各ラベルは、スクリーンの下にあるソフトキー ボタンのアクションを示しています。

電話スクリーンのクリーニング



注意

液体や粉末は電話機に対して使用しないでください。電話機の部品に入り込み、故障の原因になる可能性があります。

手順

画面は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

電話回線とコールの違いについて

本書で電話機の使用法を説明する際に使っている「回線」および「コール」という用語には、かなり独特な意味合いがあります。両者の違いをここで説明します。

- 回線：回線は、他人が自分へのコールに使用できる電話番号またはインターコム番号にそれぞれ対応しています。電話機に割り当てられた回線の数、電話スクリーンの右側で確認できます。回線数は、電話番号および電話回線アイコンの数と同じです。
- コール：1本の回線で複数のコールをサポートできます。デフォルトで、電話機は1つの回線につき4つの接続コールをサポートしますが、管理者は必要に応じてこの数を調整できます。
アクティブとなり得るコールは常に1つに限定されるので、他のコールはすべて自動的に保留状態になります。

たとえば2つの回線があり、各回線で4つのコールがサポートされる場合、一度に最大8つの接続コールが存在する可能性があります。これらのうち1つだけがアクティブで、他の7つは保留中のコールとなります。

USB ポート

電話機には1つ以上のUSBポートが搭載されていることがあります。各USBポートには、最大で5台のUSBデバイスを接続できます。ポートに接続されたそれぞれのデバイス（キー拡張モジュールを含む）が、デバイスの最大数に含まれます。

たとえば、ご使用の電話機で、側面ポートは5台のUSBデバイスと背面ポートは5台の追加の標準USBデバイスをサポートできます。多くのサードパーティUSB製品は、USBデバイスを複数含んでおり、したがって、複数デバイスとしてカウントされます。



(注) USBハブを使用している場合、アクティブコール中に電話機からUSBケーブルを抜くと、電話機が再起動することがあります。

関連トピック

[Cisco IP Phone 8800 シリーズ, \(1 ページ\)](#)

携帯端末の充電

デバイスがUSB接続可能な場合、電話機のUSBポートを使用してモバイルデバイス（携帯端末）を充電できます。次のポートでUSB充電が可能です。

- 側面ポート：標準的なデバイス充電が可能です。
- 背面ポート（Cisco IP Phone 8861 および 8865 のみ）：標準的なデバイス充電および高速充電が可能です。

モバイルデバイスが電力節約モードである場合、電話機は充電を続けますが、Power Save Plus モードの場合は充電を停止します。

電話機を使用してモバイルデバイスを充電する際には、次の条件が適用されます。

- 充電が始まるまでに、わずかな遅延が発生することがあります。
- 場合によっては、充電中アイコンがデバイスに表示されないこともあります。たとえば、デバイスが完全に充電されるとアイコンが表示されない場合があります。
- 電話機に複数の Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール が取り付けられている場合は、背面 USB ポートでデバイスの高速充電を行うことができません。

タブレットを取り外してすぐに USB ヘッドセットを電話機に差し込むと、電話機が USB ヘッドセットを認識するまで 3 秒間遅延します。

関連トピック

[省電力](#), (18 ページ)

Bluetooth と電話機

電話機が Bluetooth に対応している場合、Bluetooth ヘッドセットを使用して、携帯電話やタブレットを Bluetooth 経由で電話機に接続できます。

Bluetooth 接続は電話機から 1~2 メートル (3~6 フィート) の範囲内で最も良く機能しますが、20 メートル (66 フィート) 離れていても機能する場合があります。接続されているデバイスと電話機との間に障害物 (壁、ドア、窓など)、大きな金属物、または他の電子機器がある場合には、Bluetooth 接続が低下することがあります。

モバイルデバイスまたはヘッドセットを Bluetooth で電話機に接続するには、最初にデバイスと電話機をペアリングします。最大で 50 台のモバイル デバイスおよび Bluetooth ヘッドセットを電話機とペアリングできます。ヘッドセットまたはモバイルデバイスがペアリングされた後、ヘッドセットまたはモバイル デバイスがオンになると、電話機はそれに接続します。

電話機で Bluetooth ヘッドセットやモバイルデバイスを使用するときには、次の点に注意してください。

- 電話機は、電話機に最後に接続された Bluetooth ヘッドセットまたはモバイル デバイスをデフォルト デバイスとして使用します。
- 1 台のモバイル デバイス (携帯電話機またはタブレット) と 1 つの Bluetooth ヘッドセットを同時に接続できます。
- 電話機は、ペアリングされたモバイル デバイスのうち一度に 1 台だけと接続できます。携帯電話が接続された状態でタブレットをオンにした場合、タブレットが電話機に接続され、携帯電話は切断されます。
- Bluetooth ヘッドセットとモバイル デバイスが電話機に接続されている場合、Bluetooth ヘッドセットを使用してデスクの電話機のコールにモバイルデバイスから応答することはできません。

関連トピック

[Bluetooth ヘッドセット](#), (80 ページ)

[モバイル デバイスとデスク電話機のペアリング](#), (49 ページ)

Cisco IP Phone 8800 シリーズ, (1 ページ)

省電力

管理者は、電話機の使用時に電話スクリーンで消費される電力を減らすことができます。省エネ設定には、次の2つのレベルがあります。

- 省電力：電話機が一定時間にわたって非アクティブ状態になるとバックライトや画面がオフになります。
- Power Save Plus：スケジュールされた時刻に電話機がオフになります。さらに、スケジュールされた時刻に電話スクリーンが再びオンになります。管理者は、通常の業務時間に基づいて、電源をオフ/オンにする時刻を設定します。要件が変化した（たとえば、勤務時間や勤務日に変更になった）場合は、電話機を再設定するよう管理者に依頼してください。

スケジュールされた電源オフ時刻の10分前になると[選択 (Select)] ボタンが点灯し、特定の時刻に電話機の電源がオフになることを示すメッセージが表示されます。また、電源オフ時刻の10分前、7分前、および4分前に電話機の着信音が4回鳴ります。電源オフの30秒前に、着信音が15回鳴ります。

電話機がアクティブ（電話中など）の場合、電話機が非アクティブになってしばらく経ってから、保留になっている電源シャットダウンの通知が表示されます。

電話機の電源を入れる

エネルギー節約のために電話機の電源をオフにすると、電話スクリーンがブランクになり、[選択 (Select)] ボタンが白色に点灯します。

手順

[選択 (Select)] を押します。

追加のヘルプと情報

電話機で利用可能な機能について不明な点がある場合は、管理者にお問い合わせください。

シスコ Web サイト (<http://www.cisco.com>) には、電話機およびコール制御システムについての詳細情報が掲載されています。

- クイック スタート ガイドおよびエンドユーザ ガイド（英語）については、次のリンクを参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/products-user-guide-list.html>[英語]

- 英語以外のガイドについては、次のリンクを参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/tsd-products-support-translated-end-user-guides-list.html>[英語]

- ライセンス情報については、次のリンクを参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/products-licensing-information-listing.html>[英語]

アクセシビリティ機能

Cisco IP Phones は、視覚障がい者、聴覚障がい者、身体障がい者のために、ユーザ補助機能を備えています。

これらの電話機のアクセシビリティ機能の詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/products-technical-reference-list.html>[英語]を参照してください。

アクセシビリティの詳細については、次のシスコ Web サイトにも記載されています。

<http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html>[英語]

トラブルシューティング

コール品質の問題や、コールが予期せず切断される、機能が突然正常に動作しなくなるなどの問題が発生する場合があります。これらの問題は、次の状態に関連している可能性があります。

- 電話機がコール制御システムと通信できない
- コール制御システムの通信上の問題、または内部的な問題
- 電話機の内部的な問題

問題が発生する場合は、管理者の支援のもとで問題の根本原因をトラブルシューティングすることができます。

電話機についての情報を取得する

管理者から、電話機についての情報を提供するように求められることがあります。この情報は、トラブルシューティングの目的で電話機を一意に識別します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [電話の情報 (Phone information)] を選択します
- ステップ 3** (任意) アップグレード中に [詳細の表示 (Show detail)] を押すと、アップグレード過程が表示されます。
- ステップ 4** [アプリケーション (Applications)] 画面に戻るには、[終了 (Exit)] を押します。
-

通話品質の問題を報告する

パフォーマンスに関する問題のトラブルシューティングに役立てるために、管理者により一時的に、電話機に品質レポート ツール (QRT) が設定されることがあります。設定に応じて、[品質レポート ツール (QRT) (Quality Reporting Tool (QRT))] は次の用途に使用します。

- 現在のコールの音声に関する問題をすぐにレポートします。
- カテゴリのリストから一般的な問題を選び、[理由コード (reason codes)] を選択します。

手順

-
- ステップ 1** [品質のレポート (Report quality)] を押します。
- ステップ 2** スクロールして発生した問題に最も近い項目を選択します。
- ステップ 3** [選択 (Select)] ソフトキーを押します。
情報が [システム管理者 (System Administrators)] に送信されます。
-

電話機のすべての問題を報告する

Cisco Collaboration Problem Report Tool (PRT) を使用すると、通話記録を収集および送信し、管理者に問題を報告することができます。PRT アップロードが失敗したというメッセージが表示された場合、問題レポートは電話機に保存されるため、管理者に連絡する必要があります。

手順

-
- ステップ1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ2 [電話の情報 (Phone information)] > [問題の報告 (Report problem)] を選択します。
 - ステップ3 [問題の発生日付 (Date of problem)] フィールドに、問題が発生した日付を入力します。デフォルトではこのフィールドに現在の日時が表示されます。
 - ステップ4 [問題の発生時刻 (Time of problem)] フィールドに、問題が発生した時刻を入力します。デフォルトではこのフィールドに現在の時刻が表示されます。
 - ステップ5 [問題の説明 (Problem description)] を選択します。
 - ステップ6 表示されるリストから説明を選択します。
 - ステップ7 [送信 (Submit)] を押します。
-

接続が失われた場合

さまざまな理由により、電話機とコール制御システムとの接続が失われることがあります。接続が失われた場合、電話スクリーンにアラートメッセージが表示されます。

アクティブコール中に接続が失われた場合、そのコールは継続します。ただし、通常の電話機能の中にはコール制御システムからの情報を必要とするものがあるため、すべての機能にアクセスできるわけではありません。ソフトキーに機能が表示されなくなったり、ボタンを押してもアクションが実行されなかったりします。

電話機がコール制御システムに再接続すると、通常の電話機能が再び利用可能になります。

シスコ製品（ハードウェア）に関する1年間の限定保証規定

保証期間内にお客様が受けられるハードウェアの保証およびサービスに関して適用される特別な条件があります。

シスコのソフトウェアに適用される保証およびライセンス契約を含む正式な保証書は、Cisco.com の <http://www.cisco.com/go/hwwarranty> で提供しています。



第 2 章

コール

- [コールの発信, 23 ページ](#)
- [コールへの応答, 28 ページ](#)
- [ビデオ コール, 32 ページ](#)
- [音声をミュートにする, 34 ページ](#)
- [コールの保留, 34 ページ](#)
- [コールの転送, 38 ページ](#)
- [別の担当者にコールを転送する, 38 ページ](#)
- [電話会議とミーティング, 39 ページ](#)
- [インターコム コール, 41 ページ](#)
- [通話の監視と録音, 42 ページ](#)
- [優先コール, 43 ページ](#)
- [複数の回線, 45 ページ](#)
- [モバイル デバイスとデスクの電話機, 48 ページ](#)

コールの発信

Cisco IP Phone は、通常の電話機と同じように動作します。より簡単な操作で通話を発信できます。

コールの発信

手順

番号を入力してハンドセットを持ち上げます。

スピーカーフォンによるコールの発信

手順

-
- ステップ 1** キーパッドを使用して番号を入力します。
- ステップ 2** [スピーカーフォン (speakerphone)] ボタン  を押します。
-

関連トピック

[ヘッドセット, \(79 ページ\)](#)

ヘッドセットによるコールの発信

手順

-
- ステップ 1** ヘッドセットを差し込みます。
- ステップ 2** キーパッドを使用して番号を入力します。
- ステップ 3** [ヘッドセット (headset)] ボタン  を押します。
-

URI ダイアルによるコールの発信

SIP アドレス (bob@example.com など) を電話番号として使用する URI ダイヤリングにより、コールを発信することができます。SIP アドレスを入力するときには、キーを押してから次のキーを押すまでに 10 秒以上の間隔を空けないでください。入力のない状態が 10 秒続くと、電話機は完全なアドレスが入力されたと思なし、コールを発信しようとします。

ドメイン内でコールを発信する場合は、SIP アドレスの @example.com の部分を含める必要はありません。ドメイン外でコールを発信する場合は、ドメイン名を含む SIP アドレス全体を入力してください。SIP アドレスの最大長は 254 文字です。

手順

SIP アドレスを入力してハンドセットを取り上げます。

番号をリダイヤルする

最後にダイヤルした電話番号をもう一度発信することができます。

手順

-
- ステップ 1** (任意) 回線を選択します。
- ステップ 2** [リダイヤル (Redial)] を押します。
-

短縮ダイヤル

頻繁に通話する相手の番号をすばやくダイヤルするために、ボタンまたはコードを割り当てることができます。短縮ダイヤル機能を電話機で使用する前に、セルフ ケア ポータルで短縮ダイヤルを設定してください。

電話機の設定に応じて、次のような機能がサポートされます。

- 短縮ダイヤルボタン：短縮ダイヤル用に設定された 1 つ以上の回線ボタンから、すばやく電話番号をダイヤルできます。
- 短縮ダイヤルコード：コード（固定短縮ダイヤルとも呼ぶ）から電話番号をダイヤルできます。

関連トピック

[セルフ ケア ポータル, \(9 ページ\)](#)

[短縮ダイヤル番号, \(10 ページ\)](#)

短縮ダイヤル ボタンを使用したコールの発信

はじめる前に

セルフ ケア ポータルで短縮ダイヤル コードを設定します。

手順

短縮ダイヤル ボタン  を押します。

関連トピック

[セルフ ケア ポータル, \(9 ページ\)](#)

短縮ダイヤル コードを使用したコールの発信

はじめる前に

セルフ ケア ポータルで、短縮ダイヤル (スピードダイヤル) コードを設定します。

手順

[短縮ダイヤル (Speed Dial)] コードを入力し、[短縮ダイヤル (Speed Dial)] を押します。

関連トピック

[セルフ ケア ポータル, \(9 ページ\)](#)

ファストダイヤル ボタンを使用したコールの発信

はじめる前に

パーソナルディレクトリでファストダイヤル コードを設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [ファストダイヤル (Fast Dial)] を押します。
 - ステップ 2** [パーソナルディレクトリ (Personal Directory)] にログインします。
 - ステップ 3** [個人ファストダイヤル (Personal Fast Dials)] を選択します。
 - ステップ 4** ファストダイヤル コードを選択して、[ダイヤル (Dial)] ソフトキーを押します。
-

関連トピック

[連絡先にファストダイヤル コードを割り当てる, \(60 ページ\)](#)

国際番号のダイヤル (Dial an International Number)

電話番号の前にプラス記号 (+) を付けると、国際電話をダイヤルできます。

手順

-
- ステップ 1** アスタリスク (*) を 1 秒間以上押したままにします。

電話番号の先頭にプラス (+) 記号が表示されます。トーンが変化して、* が + 記号に変わったことを示します。オフフックの場合に、トーンが聞こえます。

- ステップ 2** 番号をダイヤルします。
最後のキーを押してから 10 秒後に、電話機から番号が発信されます。

連絡先が通話可能な場合に連絡を受け取る

コールを発信しても相手の回線がビジー状態の場合、または相手が応答しない場合、相手が通話可能になったときに特殊な呼出音で通知を受け取ることができます。

手順

- ステップ 1** 話中音または呼出音が聞こえているときに、[コールバック (Callback)] を押します。
ステップ 2 確認画面を終了するには、[終了 (Exit)] を押します。
ステップ 3 相手が通話可能になったことを示す呼出音が聞こえたら、[ダイヤル (Dial)] を押して再びコールを発信します。

課金コードまたは承認コードを必要とするコール

電話番号をダイヤルした後に課金コードまたは承認コード（または両方のコード）を入力するよう、管理者が要求する場合があります。クライアント識別コードと呼ばれる課金コードは、アカウントリングや請求の目的で使用されます。強制承認コードと呼ばれる承認コードは、特定の電話番号へのアクセスを制御します。

課金コードが必要な場合、電話機に「クライアント識別コードを入力してください (Enter Client Matter Code)」というメッセージが表示され、ダイヤルした番号が “*****” に変更されて、特殊なトーンが聞こえます。

承認コードが必要な場合、電話機に「承認コードを入力してください (Enter Authorization Code)」というメッセージが表示され、ダイヤルした番号が “*****” に変更されて、特殊なトーンが聞こえます。セキュリティ上の理由から、入力した番号の代わりに “*” が電話機に表示されます。

課金コードと承認コードの両方が必要な場合、まず承認コードを入力するよう求められます。次に、課金コードを入力するよう求められます。

関連トピック

[短縮ダイヤル番号, \(10 ページ\)](#)

安全なコール

社外の人物による不正な改ざんからコールを保護するために、管理者は措置を講じることができます。通話中にロックアイコンが電話機に表示される場合、通話を保護するよう管理者が操作を行ったことを示しています。電話機の設定によっては、電話をかける前にサインインする必要があります。生じたり、ハンドセットからセキュリティ トーンが聞こえたりすることがあります。

コールへの応答

Cisco IP Phone は、通常の電話機と同じように動作します。より簡単な操作で通話に応答できます。

コールに応答する

手順

オレンジ色に点滅している回線ボタンを押します。

コール待機への応答

アクティブ コール中にコール待機が発生すると、ビープ音が一度聞こえて、回線ボタンがオレンジ色に点滅します。

手順

ステップ 1 [回線ボタン (line button)] を押す。

ステップ 2 (任意) 複数のコール待機が存在する場合は、着信コールを 1 つ選択します。

コールの拒否

アクティブ コールまたは呼び出し中の着信コールを、ボイスメールシステムや設定済み電話番号に送信できます。また、呼び出し中の着信コールをサイレントにすることもできます。

手順

次のいずれかの操作を実行して、コールを拒否します。

- 着信コールを強調表示して、[拒否 (Decline)] を押します。

- [音量 (Volume)] を下に一度押すと、呼び出し中の着信コールがサイレントになり、着信コールはボイスメールまたは設定済み電話番号に転送されます。

応答不可をオンにする

特定の作業に集中したいときに応答不可 (DND) 機能を使用すると、電話機をサイレント状態にして着信コール通知を無視できます。

DNDを有効にすると、着信コールはボイスメールなどの別の番号 (設定されている場合) に転送されます。

DND がオンの場合、DND アイコンが電話スクリーンに表示されます。

DNDを有効にすると、その電話機のすべての回線が対象となります。ただし、DNDがオンになっていてもインターコム コールと緊急通話は常に受信します。

手順

-
- ステップ 1** [応答不可 (Do not disturb)] を押すと、DND がオンになります。
- ステップ 2** 再び [応答不可 (Do not disturb)] を押すと、DND がオフになります。
-

同僚の電話機に応答する (コール ピックアップ)

同僚との間でコール処理タスクを共有している場合、同僚の電話機に着信しているコールに応答することができます。まず、管理者が少なくとも 1 つのコールグループにこのユーザを割り当てる必要があります。

グループ内のコールに応答する (ピックアップ)

自分のコールピックアップグループ内の別の電話機で鳴っているコールに応答することができます。ピックアップ対象のコールが複数ある場合、呼び出し時間が最も長いコールに応答することになります。

手順

-
- ステップ 1** (任意) [回線ボタン (line button)] を押す。
- ステップ 2** 自分のピックアップ グループ内の着信コールを自分の電話機に転送するには、[ピックアップ (PickUp)] を押します。
- ステップ 3** コールが鳴ったら [応答 (Answer)] を押してコールに接続します。
-

別のグループからのコールの応答（グループピックアップ）

グループピックアップを使用すると、自分のコールピックアップグループ外にある電話機のコールに回答できます。グループピックアップ番号を使ってコールをピックアップすることも、鳴っている電話回線の番号を使用することもできます。

手順

-
- ステップ 1** (任意) [回線ボタン (line button)] を押す。
- ステップ 2** [グループピックアップ (Group PickUp)] を押します。
- ステップ 3** 次のいずれか 1 つの処理を実行します。
- ピックアップしたいコールがある電話回線の番号を入力します。
たとえば、コールが回線 12345 で鳴っている場合は、「12345」を入力します。
 - グループピックアップ番号を入力します。
- ステップ 4** コールが鳴ったら [応答 (Answer)] を押してコールに接続します。
-

関連するグループからのコールの応答（その他のピックアップ）

手順

-
- ステップ 1** (任意) 回線ボタンを押します
- ステップ 2** 自分のピックアップグループ内または電話機に関連付けられているグループ内のコールに回答するには、[ピック (PickUp)] を押します。
- ステップ 3** コールが鳴ったら、[応答 (Answer)] を押してコールに接続します。
-

ハントグループ内のコールに回答する

ハントグループを使用すると、多数の着信コールがある組織の中でコールの負荷を分散できます。

管理者はいくつかの電話番号を含むハントグループを設定します。ハントグループ内の最初の電話番号がビジー状態の場合は、グループ内で次に使用可能な電話番号がシステムによって検索されます。システムはその電話機にコールを転送します。

ハントグループのメンバーは、コールを受信できる準備ができたならハントグループにサインインします。電話機でコールの着信音を鳴らさないようにするには、グループからサインアウトします。

はじめる前に

ハントグループコールを受信するには、ハントグループにサインインする必要があります。

手順

手元の電話機でハントグループのコールが鳴ったら、応答します。

ハントグループへのログインとハントグループからのログアウト

ハントグループからログアウトしても、ダイレクトコールは引き続き電話機に着信します。

手順

-
- ステップ 1** [ハントグループ (Hunt Group)] を押してログインします。
 - ステップ 2** [ハントグループ (Hunt Group)] をもう一度押してログアウトします。
-

ハントグループでの通話キューの表示

ハントグループキューのステータスを確認するには、キュー統計情報を使用できます。キューステータス表示には、次の情報が含まれます。

- ハントグループキューパターン
- 各ハントグループのキューに入っている発信者数
- 最大待機時間

手順

-
- ステップ 1** [キューのステータス (Queue Status)] を押します。
 - ステップ 2** 統計情報を更新するには、[更新 (Update)] を押します。
 - ステップ 3** [終了 (Exit)] を押します。
-

コールに自動応答する

コールに自動応答するよう電話機がセットアップされている場合、電話機が鳴ったときに特別な操作をする必要はありません。着信音が一度鳴った後、スピーカフォンを使って自動的にコールに接続されます。

ただし、ヘッドセットを使ってコールに応答したい場合は、まずヘッドセットをセットアップする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** ヘッドセットを電話機に取り付けます。
 - ステップ 2** [ヘッドセット (Headset)] ボタン  が点灯することを確認します。
 - ステップ 3** 電話機が着信コールに自動応答したとき、ヘッドセットを使用して相手と通話します。ヘッドセットを使用する必要がなくなったら、[ヘッドセット (Headset)] ボタンを押してオフにし、代わりにハンドセットまたはスピーカフォンを使用します。
-

関連トピック

[ヘッドセット, \(79 ページ\)](#)

不審なコールのトレース

迷惑電話や嫌がらせ電話を受信した場合、迷惑呼 ID (MCID) を使用して管理者に通知することができます。コールについての情報を含むサイレント通知メッセージが電話機から管理者に送られます。

手順

[発信者のレポート (Report caller)] を押します。

ビデオ コール

Cisco IP Phone 8845 および 8865 は、内蔵ビデオカメラを使ったビデオ コールをサポートしています。

関連トピック

[ビデオ設定, \(74 ページ\)](#)

ビデオコールの発信

Cisco IP Phone 8845 および 8865 ではビデオ コールを使用できます（ただし通話相手もビデオ電話機を使用している場合）。



ヒント

[切替 (Swap)] を押して、全画面表示とピクチャーインピクチャー (PIP) 表示の間で切り替えます。PIP がオフになっている場合は、切り替えを使用できません。

ビデオ コールを保留にすると、音声ミュートになってビデオが停止します。

ビデオ コールを開始する前に、[セルフビュー (Self-view)] を選択すると自分の映像をチェックできます。

手順

ビデオ カメラのシャッターが開いた状態で音声コールを発信します。

ビデオの停止

ビデオ電話機 (Cisco IP Phone 8845 または 8865) を使用している場合、通話中にビデオの送信を停止できます。

ただしシャッターを閉じてコールが終了したりビデオ コールが保留になったりすることはありません。ビデオ コールを保留にすると、ビデオと音声の両方が停止します。

手順

ステップ 1 カメラのシャッターを閉じるには、反時計回りに回転させます。

ステップ 2 ビデオ カメラのシャッターを開くには、時計回りに回転させます。

電話機表示とビデオ表示の切り替え

ビデオを非表示にすると、ビデオはバックグラウンドに移動してぼかし効果付きで表示されます。電話機デスクトップを表示させたい場合には、ビデオを非表示にしてください。

手順

ステップ 1 ビデオを非表示にするには、[ビデオの非表示 (Hide video)] を押します。

ステップ 2 ビデオを表示にするには、[ビデオの表示 (Show video)] を押します。

ピクチャーインピクチャーの位置を調整する

ビデオ コールの使用時には、着信ビデオと発信ビデオの両方を同時に表示できます。

手順

-
- ステップ 1 これをアクティブにするには [PiP] を押します。
 - ステップ 2 再び [PiP] を押すと、電話スクリーンで PiP（ピクチャーインピクチャー）ウィンドウが反時計回りに移動します。
 - ステップ 3 （任意） [切替（Swap）] を押すと、全画面表示と PIP 表示が切り替わります。
 - ステップ 4 （任意） PiP ウィンドウをデフォルト位置（右下）に戻すと、PiP が無効になります。
-

ビデオ コールとセキュリティ

社外の人物による不正な改ざんからビデオ コールを保護するために、管理者は措置を講じることができます。ビデオ コール中に [保護済み（Secure）] アイコンが表示される場合、プライバシーを保護するよう管理者が操作を行ったことを示しています。

関連トピック

[安全なコール, \(28 ページ\)](#)

音声をミュートにする

手順

-
- ステップ 1 [ミュート（Mute）]  を押します。
 - ステップ 2 再度 [ミュート（Mute）] を押すと、ミュートはオフになります。
-

コールの保留

アクティブ コールを保留にしたり、保留中のコールをピックアップしたりできます。ビデオ コールを保留にすると、コールを再開するまではビデオ転送がブロックされます。

通話を保留にする

手順

-
- ステップ 1** [保留 (Hold)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** 保留中の通話を再開するには、もう一度 [保留 (Hold)] を押します。
-

長時間にわたって保留されているコールに応答する

コールが保留状態のままになると、通知を受け取ることがあります。この通知は着信コールの通知に似ており、次の合図が出されます。

- 1 回の呼出音（一定間隔で繰り返す）
- オレンジ色に点滅する回線ボタン
- 受話器上で点滅するメッセージ インジケータ
- 電話スクリーン上の [視覚的な通知 (Visual notification)]

手順

オレンジ色に点滅している回線ボタンまたは [応答 (Answer)] を押して、保留中のコールを復帰します。

アクティブ コールと保留コールの切り替え

手順

保留中のコールの [切替 (Swap)] を押します。

コール パーク

電話機を使用して、コールをパーク（一時保存）することができます。その後、別の電話機（同僚のデスクや会議室にある電話機など）からそのコールを取得できます。

コールをパークする方法として、パークおよびダイレクト コール パークの 2 つがあります。電話機で使用可能なコール パークの種類は 1 つのみです。

コールがパーク状態にある時間が長すぎる場合、アラート トーンが聞こえます。この電話機でコールに応答するか、別の電話機から取得することができます。所定の時間内にコールに応答しない場合、システム管理者が設定した別の接続先（ボイスメールなど）にコールがルーティングされます。

コール パークを使用してコールを保留にする

電話機で応答したアクティブ コールをパークした後、コール制御システム内の他の電話機を使ってそのコールを取得することができます。

コール パーク番号にパークできるコールの数は1 つだけです。

はじめる前に

コールがアクティブでなければなりません。

手順

-
- ステップ 1** [パーク (Park)] を押した後、電話を切ります。
システムがコールを [パーク (Park)] した番号が電話機に表示されます。パークされたコールは保留されています。[復帰 (Resume)] を押すと、電話機でそのコールを再開できます。
- ステップ 2** (任意) パークされた番号を、コールに応答すべき担当者に伝達します。
-

コール パークを使用して保留中コールを取得する

ネットワークの任意の場所から、パークされたコールをピックアップできます。

はじめる前に

コールのパークに使われた番号を知っておく必要があります。

手順

コールがパークされている番号を入力すると、コールが取得されます。

処理されたダイレクト コール パークを使用してコールを保留状態にする

専用のコール パーク番号を使用してアクティブ コールをパークしたり、取得したりできます。処理されたダイレクトコールパークでは、ボタンを使用してアクティブ コールをパークします。管理者は、ボタンを短縮ダイヤル回線として設定します。このタイプのダイレクトコールでは、回線ステータス インジケータを使用して回線のステータス（使用中またはアイドル状態）をモニタできます。

手順

アイドル回線ステータス インジケータを示す回線に対して [BLFダイレクトコールパーク (BLF Directed Call Park)] を押すと、処理されたダイレクト コール パークになります。

処理されたダイレクト コール パークを使用して保留中コールを取得する

手順

[BLFダイレクト コール パーク (BLF Directed Call Park)] を押します。

手動ダイレクト コール パークを使用してコールを保留状態にする

専用のコール パーク番号を使用してアクティブ コールをパークしたり、取得したりできます。手動ダイレクト コール パークを使用すると、管理者が設定したダイレクト コール パーク番号にアクティブ コールを転送できます。

手順

-
- ステップ 1** [転送 (Transfer)]  を押します。
 - ステップ 2** ダイレクト コール パーク番号を入力します。
 - ステップ 3** もう一度 [転送 (Transfer)] を押して、コールをパークします。
-

手動ダイレクト コール パークを使用して保留中コールを取得する

専用のコール パーク番号にパークされたコールをピックアップできます。

はじめる前に

ダイレクト コール パーク番号およびパーク取得プレフィックスを知っておく必要があります。

手順

-
- ステップ 1** パーク取得用プレフィックスをダイヤルします。
 - ステップ 2** ダイレクト コール番号をダイヤルします。
-

コールの転送

電話機の回線にかかってきたコールを別の番号に転送することができます。コール転送は、電話回線ごとに設定します。コール転送が有効でない回線にコールがかかってきた場合、通常どおりコールの呼出音が鳴ります。

コールを転送するには、次の2つの方法があります。

- すべてのコールを転送する
- 電話機がビジー状態の場合、または応答がない場合など、特殊な状況でコールを転送する

コールが転送されることを確認するには、回線ラベルで [不在転送 (Forward all)]  アイコンを探します。

手順

-
- ステップ 1** すべてのコールの転送元となるアイドル状態の回線で、[不在転送 (Forward all)] を押します。
- ステップ 2** 自分の電話機からダイヤルするのとまったく同じ方法で転送先番号を入力するか、最近の通話履歴からエントリを選択します。
-

関連トピック

[セルフ ケア ポータル, \(9 ページ\)](#)

別の担当者にコールを転送する

コールを転送した場合、他の担当者が応答するまでは、元のコールに接続した状態を保つことができます。これにより、コールから自分を切断する前に、他の担当者と個別に話をする機会ができます。話す必要がない場合は、他の担当者が応答するのを待たずにコールを転送します。

また、コールから自分を切断する前に、両方の通話者の間で切り替えて、両者とそれぞれ個別に話し合うこともできます。

手順

-
- ステップ 1** 保留中ではないコールで、[転送 (Transfer)]  を押します。
- ステップ 2** 別の担当者の電話番号を入力します。
- ステップ 3** (任意) 別の担当者がコールに応答するのを待ちます。
- ステップ 4** (任意) [切替 (Swap)] を押すと、保留中のコールに戻ります。
- ステップ 5** 再度 [転送 (Transfer)] を押します。
-

電話会議とミーティング

1つのコールで複数の相手と話し合うことができます。別のユーザにダイヤルして、そのユーザをコールに追加することができます。複数の電話回線がある場合は、2つの回線にまたがる2つのコールを結合できます。

会議ホストとして、会議から個々の参加者を削除できます。参加者全員が電話を切ると、会議は終了します。

コールに別のユーザを追加する

手順

-
- ステップ1** アクティブ コールから、[会議 (Conference)]  を押します。
- ステップ2** 次のいずれかの方法で他のユーザを会議に追加します。
- [アクティブ コール (Active calls)] を押し、保留中のコールを選択します。
 - 電話番号を入力して、[コール (Call)] を押します。
- ステップ3** [会議 (Conference)] ボタンを押します。
-

会議を確立する前にコール間を切り替える

通話相手を会議に追加する前に、その相手と会話することができます。また、その相手とのコールと会議コールとの間で切り替えることもできます。

手順

-
- ステップ1** 新しいコール参加者にコールしますが、その参加者を会議には追加しないでください。コールが接続されるまで待機します。
- ステップ2** 参加者と会議の間で切り替えるには、[切替 (Swap)] を押します。
-

会議参加者の表示と削除

会議を作成した場合、会議に参加した最新の16人の参加者に関する詳細を表示できます。また、参加者を削除することもできます。

手順

-
- ステップ 1** 会議中に [詳細の表示 (Show Details)] を押して、参加者のリストを表示します。
- ステップ 2** (任意) いずれかの参加者を強調表示して [削除 (Remove)] を押すと、その参加者が会議から削除されます。
-

スケジュール済み会議コール (ミートミー)

スケジュールされた時間に会議コール (電話会議) を主催したり、会議に参加したりすることができます。

会議コールは主催者がダイヤルインするまでは開始しません。また、すべての参加者が電話を切ると会議が終了します。主催者が電話を切っても、会議は自動的に終了しません。

ミートミー会議の開催

はじめる前に

管理者からミートミー電話番号を入手し、会議参加者にその番号を配布します。

手順

-
- ステップ 1** ハンドセットを取り上げてダイヤル トーンを聞き、[ミートミー (Meet Me)] を押します。
- ステップ 2** ミートミー電話番号をダイヤルします。
-

ミートミー会議への参加

会議の主催者がダイヤルインするまでは、ミートミー会議に参加できません。ビジー音が聞こえる場合は、主催者がまだ会議にダイヤルインしていません。コールを終了して、再び試行してください。

手順

会議の開催者から提供されたミーティング電話番号をダイヤルします。

インターコム コール

インターコム回線を使用すると、一方向のコールを発信/受信できます。

インターコム コールを発信すると、受信者の電話機はミュートが有効（ウィスパー モード）になって自動応答し、受信者のスピーカフォン、ヘッドセット、またはハンドセット（このいずれかのデバイスを使用中の場合）からメッセージがブロードキャストされます。

インターコム コールを受信した後、受信者は双方向オーディオ（接続モード）を開始して会話を続けることができます。

インターコム コールの発信

インターコム コールを発信した場合、受信者がインターコム コールを受け入れるまでは、電話機がウィスパー モードになります。ウィスパー モードでは、こちらの声が相手に聞こえますが、相手の声はこちらに聞こえません。アクティブコールがある場合、そのコールは保留されます。

手順

-
- | | |
|--------|---------------------------------------|
| ステップ 1 | [インターコム (Intercom)] を押します。 |
| ステップ 2 | (任意) [インターコム (Intercom)] コードを入力します。 |
| ステップ 3 | インターコムのアラート トーンが聞こえたら、話し始めます。 |
| ステップ 4 | コールを終了するには、[インターコム (Intercom)] を押します。 |
-

インターコム コールへの応答

インターコム コールに応答して、相手と会話することができます。

はじめる前に

電話スクリーンにメッセージが表示され、音声アラートが聞こえます。電話機は、インターコム コールにウィスパー モードで応答します。

手順

-
- ステップ 1** [インターコム (Intercom)] を押して接続モードに切り替える。[接続モード (connected mode)] では、インターコム発信者と会話ができます。
- ステップ 2** コールを終了するには、[インターコム (Intercom)] を押します。
-

通話の監視と録音

コールを監視し、録音することができます。ただし、回線には発信者、監察者、着信者の少なくとも 3 人が必要です。

監察者はコールに応答し、会議コールを開始し、会話を監視および録音します。

監察者は次のタスクを実行します。

- コールを [録音 (Record)] する。
- 最初の参加者のみと会議する。他の参加者は必要に応じて参加者を追加していく。
- コールを終了する。

監察者が電話を切ると、会議は終了します。

監視されたコールの設定

手順

-
- ステップ 1** 着信コールに応答します。
コールの監視および録音が必要であるとシステムが判断した場合、[録音 (Record)] が表示されます。
- ステップ 2** [会議 (Conference)] ボタン  を押して、会議コールを開始します。
- ステップ 3** スーパーバイザの電話番号を入力して、[コール (Call)] を押します。
- ステップ 4** スーパーバイザが応答したら、[会議 (Conference)] を押します。
- ステップ 5** コールを終了するには、[通話終了 (End Call)] を押します。
-

通話の録音

コールを録音することができます。コールの録音時に、通知トーンが聞こえることがあります。

手順

録音を開始または停止するには、[録音 (Record)] を押します。

優先コール

業務中に、電話機を使って緊急または重大な要件を扱う必要が生じることがあります。特定のコールを「非常に重要」と識別して、通常のコールよりも優先度を高くすることができます。優先度の範囲はレベル 1（低）～レベル 5（高）です。この優先度システムを **Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)** といいます。

管理者は、使用可能な優先度をセットアップして、特別なサインイン情報が必要かどうかを決定します。

優先度の高いコールの呼出音が電話機で鳴ると、優先度レベルが電話スクリーンに表示され、そのコールがコールリストの先頭になります。通話中に高優先度のコールが電話機に着信した場合、高優先度のコールが現在のコールに取って代わることを示す特殊なプリエンプション呼出音が聞こえます。現在のコールを終了して、高優先度のコールに応答してください。

高優先度のコールで通話している間は、次の操作を行ってもコールの優先度は変更されません。

- コールを保留にする
- コールを転送する
- コールを 3 者会議に追加する
- コール ピックアップを使用してコールに応答する

表 3 : **Multilevel Precedence and Preemption** のプライオリティ レベル

MLPP アイコン	優先度レベル
	レベル 1 : プライオリティ コール
	レベル 2 : 中程度のプライオリティの (即時) コール
	レベル 3 : プライオリティの高い (フラッシュ) コール
	レベル 4 : フラッシュ オーバーライド
	レベル 5 : エクゼクティブ オーバーライド

プライオリティ コールを発信する

プライオリティ コールを発信するには、特殊な資格情報を使ってサインインする必要があることがあります。これらの資格情報を入力する機会は3回あり、正しく入力されたかどうか通知されます。

手順

-
- ステップ 1** ハンドセットを取り上げます。
 - ステップ 2** [優先レベル (PrecLevel)] を押します。
 - ステップ 3** コールのプライオリティ レベルを選択します。
 - ステップ 4** (任意) 認証画面にクレデンシャルを入力します。
 - ステップ 5** 接続先の番号を入力します。
優先度レベルアイコンが電話機スクリーンに表示され、優先リングバックトーンが聞こえます。
-

プライオリティ コールに応答する

通常よりも速い特殊な呼出音が聞こえる場合は、プライオリティ コールを受信しています。

手順

優先度の高いコールの特殊な呼出音が聞こえたら、オレンジ色に点滅しているセッション ボタンを押してください。

別のコールで通話している間にプライオリティ コールに応答する

コールの最中に割り込みトーンが継続的に聞こえる場合は、自分または同僚がプライオリティ コールを受信しています。優先度の高いコールを適切な応答者につなげるために、即座に電話を切ってください。

手順

[リリース (Release)]  を押すか、ハンドセットを置きます。
それまでのコールが終了し、優先度の高いコールの着信音が適切な電話機で鳴ります。

複数の回線

他のユーザと電話番号を共有する場合、複数の回線を電話機で使用できます。複数の回線を使用するときには、より多くのコール機能を利用できます。

最も古いコールから応答

電話機のすべての回線における最も古いコールに応答できます。これには、アラート状態の保留復帰およびパーク復帰コールも含まれます。[着信コール (Incoming Call)] は、保留またはパーク復帰コールよりも常に優先されます。

複数の回線进行操作しているときには、通常、応答したい着信コールの回線ボタンを押します。回線とは無関係に最も古いコールに応答するには、[応答 (Answer)] を押します。

電話機ですべてのコールを表示

(すべての電話回線からの) すべてのアクティブ コールのリストを、古いものから順番に表示できます。

このリストにはすべてのコールが一緒に表示されるため、複数の回線がある場合や、他のユーザと回線を共有している場合に便利です。

また、プライマリ回線でのアクティブ コールを表示することもでき、1 つの画面にすべてのコールを表示させたい場合にはこれが便利です。

手順

プライマリ回線の [すべてのコール (All Calls)] またはセッション ボタンを押します。

非常に重要なコール

すべてのアラート コールのリストを古いものから順番に表示できます。アラート コールは、重要と見なされている電話番号で、この番号からのコール受信時とこの番号へのコール発信時にアラートが発行されます。

手順

[呼び出しコール (Alert call)] を押します。

回線フィルタを使用して特定の回線のコール通知を表示する

優先度の高い電話番号や回線にコールが着信したときに通知を受け取るよう、電話機を設定できます。たとえば、シニア エグゼクティブの電話回線やカスタマー ヘルプ回線がこれに該当します。このツールは、複数の電話回線や多数のコールを扱う場合に便利です。

また、管理者による電話機の設定方法によっては、一日の特定の時間帯に回線フィルタを使用できることもあります。

回線フィルタの作成

手順

- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2 [設定 (Settings)] > [コール通知 (Call notifications)] > [新しいフィルタの追加 (Add new filter)] を選択します。
カスタム フィルタの最大数は 20 です。すでに最大数のカスタム フィルタを作成している場合は、この手順を進める前に、フィルタを削除してください。
- ステップ 3 [選択 (Select)] を押して、テキストを編集可能にします。
- ステップ 4 新しいフィルタにデフォルト名を受け入れるか、新しい名前を入力します。
- ステップ 5 新しいフィルタに追加する回線を選択します。
使用可能なすべての回線がリストに表示されます。リストにない回線が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。
- ステップ 6 [適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 7 フィルタを表示するには、[戻る (Back)] ボタンを押します。

回線フィルタの使用

手順

- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2 [設定 (Settings)] > [コール通知 (Call notifications)] を選択します。
- ステップ 3 適用するフィルタを強調表示して、[選択 (Select)] を押します。

回線フィルタの変更

制御する回線フィルタを変更することができます。管理者は、「すべてのコール」フィルタおよび毎日のスケジュールフィルタを制御します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2** [設定 (Settings)] > [コール通知 (Call notification)] を選択します。
 - ステップ 3** フィルタを強調表示して [編集 (Edit)] を押し、既存のフィルタを変更します。
-

共有回線

同じ電話番号を 1 人または複数の同僚と共有できます。たとえば、管理者のアシスタントは、管理者のためにコールの発信者名確認を担当することがあります。

電話番号を共有すると、他の通常の電話回線と同じようにその回線を使用できますが、共有回線に特有のいくつかの動作に注意してください。

- 共有された電話番号は、その番号を共有しているすべての電話機に表示されます。
- 誰か同僚がコールに応答した場合、手元の電話機の共有回線ボタンとセッションボタンが赤色に点灯します。
- 自分がコールを保留にした場合、自分の回線ボタンが緑色に点灯し、セッションボタンが緑色に点滅します。しかし同僚の回線ボタンは赤色に点灯し、セッションボタンは赤色に点滅します。

デフォルトでは、共有回線番号に着信すると、ユーザに割り当てられたすべてのデバイス（職場の電話、携帯電話など）の着信音が鳴ります。

[共有回線 (Shared Line)] のコールに参加する

自分または同僚は、共有回線上のコールに参加できます。

手順

-
- ステップ 1** 共有回線の回線ボタンを押すか、回線を選択して [割り込み (Barge)] を押します。
(注) 共有回線上のコールに自分を追加するには、[コール (Calls)] を押す必要があります。
 - ステップ 2** (任意) コールに自分を追加するには、[はい (Yes)] を押します。
-

共有回線のコールに参加する前に通知を受け取る

コールに割り込む際にアラートを受け取るよう、電話機をセットアップできます。デフォルトでは、アラート プロンプトがオフになっています。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2** [設定 (Settings)] > [割り込みアラート (Barge Alert)] を選択します。
 - ステップ 3** [オン (On)] をクリックすると、アラートが有効になります。
-

共有回線でのプライバシーの有効化

プライバシーを使用すると、回線を共有する他のユーザから自分のコール情報を隠すことができます。

[プライバシー (Privacy)] は、使用している電話機のすべての [共有回線 (Shared Line)] に適用されます。[共有回線 (Shared Line)] が複数存在し、[プライバシー (Privacy)] が有効になっている場合は、他のユーザはすべての [共有回線 (Shared Line)] を表示できません。

回線を共有している電話機で [プライバシー (Privacy)] 機能が有効になっていても、[共有回線 (Shared Line)] を通常どおり使用して、コールを発信および受信できます。

この機能が有効な場合は、電話スクリーンに視覚的な通知が表示されます。

手順

-
- ステップ 1** この機能を有効にするには、[プライバシー (Privacy)] を押します。
 - ステップ 2** この機能をオフにするには、[プライバシー (Privacy)] をもう一度押します。
-

モバイル デバイスとデスクの電話機

モバイルデバイス（電話機またはタブレット）を持っている場合、モバイルデバイスとデスクの電話機を接続できます。この接続により、モバイル デバイスまたはデスク電話機のどちらでもコールを発信したり応答したりできるようになります。

Intelligent Proximity を使用した通話

Bluetoothを使用すると、モバイルデバイス（電話機またはタブレット）とデスクの電話機をペアリングできます。モバイルデバイスがペアリングされて接続された後、電話機には追加の電話回線が表示され、これはモバイル回線（携帯電話番号）を示しています。デスクの電話機からこの携帯電話のコールを発信/受信することができます。このようにデスクの電話機でモバイル回線を使用できる機能を、Intelligent Proximity といいます。

モバイル デバイスとデスク電話機のペアリング

モバイル デバイスをデスクの電話機とともに使用できるようにするには、その前に Bluetooth を使ってペアリングし、通信パスを確立する必要があります。モバイルデバイスをデスク電話機にペアリングした後、モバイルデバイスが範囲内に入ると電話機はそのデバイスに自動接続し、モバイル デバイスが範囲外に出るとそのデバイスから切断します。

Bluetooth ヘッドセットとモバイルデバイスを同時に接続しているときは、モバイルデバイスからの音声に応答するために Bluetooth ヘッドセットを使用することはできません。

モバイルデバイスと電話機が接続された後、モバイルの連絡先と通話履歴をデスクの電話機に保存することができます。

はじめる前に

携帯端末を検出可能モードにします。 検出可能モードに関する詳細については、携帯端末のマニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1 デスクの電話機で、[アプリケーション (Applications)]  を押します。
 - ステップ 2 [Bluetooth] > [Bluetooth デバイスを追加 (Add Bluetooth device)] を選択します。
 - ステップ 3 使用可能なデバイスのリストからペアリングするモバイル デバイスを選択します。
 - ステップ 4 モバイル デバイスでパスキーを確認します。
 - ステップ 5 デスクの電話機でパスキーを確認します。
 - ステップ 6 (任意) モバイル デバイスの連絡先と通話履歴をデスクの電話機で利用可能にするかどうかを選択します。
-

関連トピック

[Bluetooth と電話機, \(17 ページ\)](#)

[Cisco IP Phone 8800 シリーズ, \(1 ページ\)](#)

接続された携帯端末の切り替え

ご使用の Cisco IP Phone の圏内に 2 台以上のペアリングされた携帯端末が存在する場合は、接続する携帯端末を選択できます。

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 [Bluetooth] を選択します。
 - ステップ 3 使用可能なデバイスのリストから携帯端末を選択します。
-

携帯端末の削除

携帯端末（モバイル デバイス）を削除すると、Bluetooth を使って自動接続されなくなります。

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 [Bluetooth] を選択します。
 - ステップ 3 使用可能なデバイスのリストにある携帯端末を選択します。
 - ステップ 4 [削除 (Delete)] を押します。
-

ペアリングされた Bluetooth デバイスの表示

ペアリングされた携帯端末は、ペアリング済みデバイス一覧に「Bluetooth」 として表示されます。このアカウントは携帯端末をペア解除するまで維持されます。

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 [Bluetooth] を選択します。
-

携帯電話の Intelligent Proximity

携帯電話の連絡先および通話履歴をデスクの電話機と共有し、携帯電話とデスクの電話機の間でコールを移動できます。また、デスクの電話機でモバイルデバイスの電波強度と電池残量を表示することもできます。

モバイル コール着信を処理する

はじめる前に

携帯電話はデスクの電話機にペアリングされます。

手順

携帯電話でコールが鳴ったときに、デスク電話機で次のいずれかの操作を行います。

- コールに応答するには [応答 (Answer)] を押します。
- コールを拒否してボイスメールに送るには、[拒否 (Decline)] を押します。
- 着信音を止めてコールを拒否するには、[無視 (Ignore)] を押します。

モバイル コールの発信

はじめる前に

携帯電話はデスクの電話機にペアリングされます。

手順

-
- | | |
|---------------|-----------------------|
| ステップ 1 | デスクの電話機でモバイル回線を選択します。 |
| ステップ 2 | 電話番号を入力します。 |
| ステップ 3 | [コール (Call)] を押します。 |
-

デスク電話機とモバイル デバイスの間でコールを移動する

デスクの電話機を使用して、アクティブ コールをモバイルデバイスに移動したり、デスクの電話機に戻したりすることができます。

はじめる前に

携帯電話はデスクの電話機にペアリングされます。

手順

デスクの電話機からモバイルデバイスに（または逆方向に）コールを移動するには、[音声を移動（Move audio）] を押します。

携帯端末の音量の調整

Cisco IP Phone と携帯端末の音量コントロールは同期されます。 アクティブ コールを実行している場合は、同期のみが実行されます。

はじめる前に

携帯電話はデスクの電話機にペアリングされます。

手順

次のいずれかの選択肢を実行します。

- デスクの電話機の [音量（Volume）]  を右に押して音量を上げるか、左に押して音量を下げます。
- モバイル デバイスの [音量（Volume）] ボタンを押します。

デスクの電話機でモバイルの連絡先を表示する

携帯電話をペアリングして、モバイル連絡先を共有するオプションを選択した場合、デスクの電話機で携帯電話の連絡先リストを表示することができます。

手順

ステップ 1 デスクの電話機で、[連絡先（Contacts）]  を押します。

ステップ 2 一覧から携帯電話を選択します。

モバイル デバイス連絡先リストに連絡先を保存する

モバイル デバイス連絡先リストに連絡先を保存することができます。

はじめる前に

携帯電話はデスクの電話機にペアリングされます。

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 携帯電話を選択します。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] にチェックマークを付けます。
-

モバイル デバイス連絡先リストで連絡先を削除する

モバイル デバイス連絡先リストから連絡先を削除することができます。

はじめる前に

携帯電話はデスクの電話機にペアリングされます。

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 携帯電話を選択します。
 - ステップ 3 [削除 (Delete)] にチェックマークを付けます。
-

デスクの電話機でモバイル通話履歴を表示する

携帯電話をペアリングして、通話履歴を共有するオプションを選択した場合、デスクの電話機で携帯電話の通話履歴を表示できます。

手順

デスクの電話機で、[発信 (New Call)] を押します。

タブレットのインテリジェント プロキシミティ

タブレットを持っている場合、Bluetooth を使用してタブレットをデスクの電話機にペアリングできます。ペアリング後に、タブレットの電話アプリの音声をデスクの電話機で再生することができます。タブレットで使用できるコール機能の数は、携帯電話で使用できるコール機能ほど多くはありません。

デスク電話機は Android および iOS タブレットからの接続をサポートしています。

タブレットからデスクの電話機に音声を移動する

はじめる前に

タブレットがデスクの電話機にペアリングされ、タブレットにコールが着信します。

手順

ステップ 1 タブレット上で、Bluetooth を使用するようオーディオ パスを設定します。

ステップ 2 ヘッドセット、ハンドセット、またはスピーカーフォンを使用して、電話機で音声を聞きます。

デスクの電話機からタブレットに音声を移動する

はじめる前に

タブレットがデスクの電話機にペアリングされ、タブレットでコール中に音声デスクの電話機から聞こえています。

手順

次のいずれか 1 つの処理を実行します。

- 受話器を置きます。
- [リリース (Release)] を押します。
- デスクの電話機で別のコールに応答します。

モバイル コネクトを使用した通話

携帯電話を使用して、デスクの電話番号にかかってきたコールを処理することができます。このサービスをモバイル コネクトといいます。

セルフ ケア ポータルで、携帯電話を追加の電話機としてデスクの電話機に関連付けます。どのコールを携帯電話に送るかを制御できます。

追加の電話機を有効にした場合の動作は次のとおりです。

- デスクの電話機と追加の電話機がコールを同時に受信します。
- デスクの電話機でコールに応答すると、追加の電話機の着信音が止まってコールが切断され、不在着信メッセージが表示されます。

- いずれか 1 つの追加の電話機でコールに応答すると、それ以外の追加の電話機とデスクの電話機の着信音が止まってコールが切断されます。他の追加の電話機には不在着信メッセージが表示されます。
- 追加の電話機でコールに応答した後、その回線を共有するデスク電話機にコールを切り替えることができます。その場合、同じ回線を共有するデスク電話機には「リモートで使用中 (Remote In Use)」というメッセージが表示されます。

関連トピック

[セルフ ケア ポータル, \(9 ページ\)](#)

モバイル コネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)

手順

-
- ステップ 1** [モビリティ (Mobility)] を押して、リモート接続先の現在のステータス (有効または無効) を表示します。
- ステップ 2** [選択 (Select)] を押して、ステータスを変更します。
-

デスクの電話機から携帯電話にコールを移動する

自分のデスクの電話機から携帯電話にコールを移動することができます。そのコールは引き続きデスク電話機の回線に接続されたままになるため、他のコールのためにその回線を使用することはできません。コールが終了するまで、回線は使用中になります。

はじめる前に

デスクの電話機でモバイル コネクトを有効にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [モビリティ (Mobility)] を押します。
- ステップ 2** [選択 (Select)] を押すと、コールが携帯電話に送信されます。
- ステップ 3** アクティブなコールに携帯電話で応答します。
-

携帯電話からデスクの電話機にコールを移動する

携帯電話から自分のデスクの電話機にコールを移動することができます。そのコールは引き続き携帯電話に接続されたままになります。

はじめる前に

デスクの電話機でモバイル コネクトを有効にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** 携帯電話で通話を終了して携帯電話を切断します。ただし、コールは切断しないでおきます。
 - ステップ 2** 5 ～ 10 秒以内にデスクの電話機の回線を押すと、デスクの電話機でコールが再開します。
-

携帯電話からデスクの電話機にコールを転送する

携帯電話から自分のデスクの電話機にコールを転送することができます。

はじめる前に

デスクの電話機でモバイル コネクトを有効にする必要があります。

管理者からアクセス コードを入手します。

手順

-
- ステップ 1** 携帯電話で、ハンドオフ機能のアクセス コードを入力します。
 - ステップ 2** 携帯電話で通話を終了して携帯電話を切断します。ただし、コールは切断しないでおきます。
 - ステップ 3** デスクトップの電話機で 10 秒以内に [応答 (Answer)] を押して、デスクフォンで会話を開始します。
-



第 3 章

連絡先

- [社内ディレクトリ](#), 57 ページ
- [\[パーソナル ディレクトリ \(Personal Directory\)\]](#), 58 ページ
- [Cisco Web Dialer](#), 62 ページ

社内ディレクトリ

自分の電話機で同僚の番号を調べることで、簡単に同僚に電話をかけることができます。管理者がこのディレクトリを設定し、保守します。

社内ディレクトリの連絡先の検索とダイヤル

手順

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。 |
| ステップ 2 | [社内ディレクトリ (Corporate Directory)] を選択します |
| ステップ 3 | 検索条件を選択します。 |
| ステップ 4 | 検索条件を入力し、[送信 (Submit)] を押します。 |
| ステップ 5 | 連絡先を選択します。 |
| ステップ 6 | [コール (Call)] を押します。 |
-

[パーソナル ディレクトリ (Personal Directory)]

パーソナルディレクトリを使用して、友人、家族、同僚などの連絡先情報を保管できます。独自の連絡先をパーソナルディレクトリに追加して、頻繁に通話する相手に短縮ダイヤルコードを割り当てることができます。

パーソナルディレクトリは、電話機またはセルフ ケア ポータルから設定できます。電話機を使用して、短縮ダイヤルコードをディレクトリ エントリに割り当てます。

関連トピック

[セルフ ケア ポータル, \(9 ページ\)](#)

パーソナル ディレクトリのサインインおよびサインアウト

はじめる前に

パーソナルディレクトリにサインインする前に、ユーザ ID と PIN（暗証番号）が必要です。これらの情報が不明な場合は、管理者にお問い合わせください。

手順

-
- | | |
|---------------|--|
| ステップ 1 | [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。 |
| ステップ 2 | [パーソナルディレクトリ (Personal directory)] を選択します |
| ステップ 3 | ユーザ ID と PIN を入力して、[送信 (Submit)] を押します。 |
| ステップ 4 | サインアウトするには、[ログアウト (Log out)] を選択し、[選択 (Select)] を押してから [OK] を押します。 |
-

パーソナル ディレクトリに新しい連絡先を追加する

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 パーソナル ディレクトリにサインインします。
 - ステップ 3 [個人アドレス帳 (Personal Address Book)] を選択します。
 - ステップ 4 [送信 (Submit)] を押します。
 - ステップ 5 [新規 (New)] を押します。
 - ステップ 6 ファーストネーム (名) とラストネーム (姓) を入力します。
 - ステップ 7 (任意) ニックネームを入力します。
 - ステップ 8 [電話 (Phones)] を押して、電話番号と必要なアクセス コードを入力します。
 - ステップ 9 [送信 (Submit)] を押します。
-

パーソナル ディレクトリの連絡先の検索

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 パーソナル ディレクトリにサインインします。
 - ステップ 3 [個人アドレス帳 (Personal Address Book)] を選択します。
 - ステップ 4 検索条件を選択します。
 - ステップ 5 検索条件を入力し、[送信 (Submit)] を押します。
-

パーソナルディレクトリの連絡先に発信する

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 パーソナルディレクトリにサインインします。
 - ステップ 3 [パーソナルディレクトリ (Personal directory)] を選択し、エントリを検索します。
 - ステップ 4 ダイヤルする個人アドレス帳のエントリを選択します。
 - ステップ 5 目的のファストダイヤルコードを選択して、[発信 (Call)] を押します。
-

連絡先にファストダイヤルコードを割り当てる

ファストダイヤルコードを使用すると、より簡単に連絡先へ発信できます。

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 パーソナルディレクトリにサインインします。
 - ステップ 3 [個人アドレス帳 (Personal Address Book)] を選択します。
 - ステップ 4 検索条件を選択します。
 - ステップ 5 検索条件の情報を入力して [送信 (Submit)] を押します。
 - ステップ 6 連絡先を選択します。
 - ステップ 7 [ファスト (FastDial)] を押します。
 - ステップ 8 番号を選択し、[選択 (Select)] を押します。
 - ステップ 9 割り当てられていないファストダイヤルインデックスまでスクロールし、[送信 (Submit)] を押します。
-

関連トピック

[ファストダイヤル ボタンを使用したコールの発信, \(26 ページ\)](#)

ファストダイヤルコードを使用した連絡先への発信

手順

-
- ステップ1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ2 パーソナル ディレクトリにサインインします。
 - ステップ3 [個人ファストダイヤル (Personal Fast Dials)] を選択し、ファスト ダイヤル コードまでスクロールします。
 - ステップ4 目的のファスト ダイヤル コードを選択して、[コール (Call)] を押します。
-

パーソナル ディレクトリの連絡先を編集する

手順

-
- ステップ1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ2 パーソナル ディレクトリにサインインします。
 - ステップ3 [個人アドレス帳 (Personal address book)] を選択し、エントリを検索します。
 - ステップ4 [選択 (Select)] を押します。
 - ステップ5 [編集 (Edit)] を押します。
 - ステップ6 エントリの情報を変更します。
 - ステップ7 [電話 (Phones)] を押して、電話番号を変更します。
 - ステップ8 [更新 (Update)] を押します。
-

パーソナルディレクトリから連絡先を削除する

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 パーソナルディレクトリにサインインします。
 - ステップ 3 [個人アドレス帳 (Personal Address Book)] を選択し、エントリを検索します。
 - ステップ 4 [選択 (Select)] を押します。
 - ステップ 5 編集 (Edit)] を押します。
 - ステップ 6 [削除 (Delete)] を押します。
 - ステップ 7 [OK] を押して、削除を確認します。
-

ファストダイヤルコードの削除

手順

-
- ステップ 1 [連絡先 (Contacts)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 パーソナルディレクトリにサインインします。
 - ステップ 3 [個人ファストダイヤル (Personal Fast Dials)] を選択し、ファストダイヤルコードを検索します。
 - ステップ 4 必要なコードを選択して、[削除 (Remove)] を押します。
 - ステップ 5 インデックスを選択して、[削除 (Remove)] を押します。
-

Cisco Web Dialer

Cisco Web Dialer、Web ブラウザ、および Cisco IP Phone を使用して、Web アプリケーションやデスクトップアプリケーションから電話を発信できます。Web ブラウザを使って Web サイトまたは社内ディレクトリに移動し、ハイパーリンクの付いた電話番号をクリックするとコールが開始します。

コールを発信するにはユーザ ID とパスワードが必要です。これらの情報は管理者から与えられます。初めて使用するユーザは、通話する前に個人設定を行う必要があります。

詳細については、次の場所にある『Cisco Web Dialer』マニュアルを参照してください。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-user-guide-list.html>[英語]



第 4 章

通話履歴

- [コール履歴リスト, 63 ページ](#)
- [最近の通話履歴を表示する, 63 ページ](#)
- [最近の通話履歴に戻る, 64 ページ](#)
- [最近の通話履歴を消去する, 64 ページ](#)
- [コール レコードの削除, 65 ページ](#)

コール履歴リスト

履歴リストを使用すると、最近の 150 件の個別コールおよびコール グループを確認できます。電話機に複数の回線がある場合、管理者は、すべての回線のコールが 1 つの履歴リストに集計されるようにセットアップできます。

履歴リストに含まれるコールのうち、同じ番号の発信先/着信元が連続している場合はグループにまとめられます。また、同じ番号からの不在着信もグループにまとめられます。

最近の通話履歴を表示する

手順

-
- | | |
|--------|---|
| ステップ 1 | [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。 |
| ステップ 2 | スクロールして、[通話履歴 (Recents)] を選択します。 |
| ステップ 3 | 表示する回線を選択します。 |
-

最近の通話履歴に戻る

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [通話履歴 (Recent)] を選択します。
- ステップ 3** (任意) 複数の回線がある場合は [すべての回線 (All Lines)] または必要な回線を選択します。
- ステップ 4** ダイヤルするコール レコードを選択します。
- ステップ 5** (任意) コール レコードを編集するには [ダイヤルの編集 (EditDial)] を押します。
- ステップ 6** [コール (Call)] を押します。
-

最近の通話履歴を消去する

手順

-
- ステップ 1** アプリケーション  を押します。
- ステップ 2** [通話履歴 (Recent)] を選択します。
- ステップ 3** (任意) [すべての回線 (All Lines)] または目的の回線を選択します。
- ステップ 4** [クリア (Clear)] を押します。
- ステップ 5** [削除 (Delete)] を押します。
-

コールレコードの削除

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [通話履歴 (Recent)] を選択します。
- ステップ 3** (任意) [すべての回線 (All Lines)] または目的の回線を選択します。
- ステップ 4** 削除する個々のコールレコードまたはコールグループを強調表示します。
- ステップ 5** [削除 (Delete)] を押して、グループ内の個々のコールレコードまたはすべてのコールを削除します。
- ステップ 6** 確認のため、再び [削除 (Delete)] を押します。
- ステップ 7** [戻る (Back)]  を押します。
-



第 5 章

ボイスメール

- [ボイスメール アカウント](#), 67 ページ
- [新着メッセージ インジケータ](#), 67 ページ
- [ボイスメールへのアクセス](#), 68 ページ
- [ビジュアル ボイスメール \(Visual Voicemail\)](#), 68 ページ

ボイスメール アカウント

電話機からボイス メッセージに直接アクセスすることができます。ボイスメール アカウントと電話機の設定は、管理者によって行われます。

それぞれのボイスメール システムは互いに異なるため、電話機からボイスメールにアクセスした後の使用方法については詳しく説明しません。ボイスメール システムで使用できるコマンドについては、ボイスメール システムのユーザ マニュアルを参照してください。

新着メッセージ インジケータ

新しいボイスメール メッセージが届いているかどうか確認するには、次のいずれかの表示を調べます。

- ハンドセットのライト ストリップが赤色に点灯します。
- 不在着信とボイスメール メッセージの数が画面に表示されます。新しいメッセージの数が 99 を超えると、プラス (+) 記号が表示されます。

また、電話回線を使用する際にハンドセット、ヘッドセット、またはスピーカフォンから断続トーンが聞こえることがあります。この断続トーンは回線によって異なります。断続トーンは、ボイス メッセージがある回線を使用しているときにのみ聞こえます。

関連トピック

[セルフ ケア ポータル, \(9 ページ\)](#)

ボイスメールへのアクセス

手順

-
- ステップ 1** [メッセージ (Messages)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** 音声プロンプトに従います。
-

ビジュアル ボイスメール (Visual Voicemail)

ビジュアル ボイスメールは音声ボイスメールに代わる機能で、利用が可能かどうかはボイスメールシステムの設定によります。音声指示に応答する代わりに、電話機の画面を使用してメッセージを操作します。メッセージのリストを表示したり、メッセージを再生したりすることができます。また、メッセージの作成、応答、転送、および削除を行うことができます。

ボイスメールシステムの設定によっては、音声受信箱を選択することによって音声ボイスメールを利用できる場合があります。音声ガイダンスを操作することもあるが、デフォルトとしてビジュアル ガイダンスを設定している場合には、この機能を使用してください。

詳細については、『Quick Start Guide for Visual Voicemail for Unity Connection』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unity-connection/products-user-guide-list.html>) [英語] を参照してください。

音声ボイスメールへのアクセス

管理者による電話機のセットアップ方法によっては、メッセージ一覧を確認しなくてもボイスメールを取得できる場合があります。ボイスメールメッセージの一覧を使用するものの、ビジュアルガイダンスなしでメッセージにアクセスすることもある場合には、このオプションが便利です。

手順

-
- ステップ 1** スクリーン上で [音声 (Audio)] ソフトキーを押します。
- ステップ 2** 要求されたら、ボイスメール資格情報を入力します。
-



第 6 章

アプリケーション

- 使用できるアプリケーション, 69 ページ
- アクティブアプリケーションの表示, 69 ページ
- アクティブアプリケーションの切り替え, 70 ページ
- アクティブアプリケーションの終了, 70 ページ

使用できるアプリケーション

デフォルトでは、シスコの電話機にこれらのアプリケーションは含まれていません。天気、株式情報、社内ニュース、行うべき作業のリストなどの情報やサービスを提供するアプリケーションが企業によって追加される場合があります。

アクティブアプリケーションの表示

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 [実行中のアプリケーション (Running applications)] を選択します
 - ステップ 3 [終了 (Exit)] を押します。
-

アクティブアプリケーションの切り替え

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [実行中のアプリケーション (Running applications)] を選択します
- ステップ 3** 実行中のアプリケーションを1つ選択して[切り替え (Switch to)]を押すと、選択したアプリケーションを開いて使用できます。
- ステップ 4** [終了 (Exit)] を押します。
-

アクティブアプリケーションの終了

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [実行中のアプリケーション (Running applications)] を選択します
- ステップ 3** 実行中のアプリケーションを1つ選択し、[閉じる (Close app)] を押してアプリケーションを閉じます。
- ステップ 4** [閉じる (Close)] を押します。
- ステップ 5** [終了 (Exit)] を押します。
-



第 7 章

設定

- 壁紙の変更, 71 ページ
- 呼出音の変更, 72 ページ
- スクリーンの明るさの調整, 72 ページ
- コントラストの調整, 72 ページ
- フォント サイズの変更, 73 ページ
- 電話機の名前の変更, 73 ページ
- ヘッドセット フィードバックの調整, 74 ページ
- ビデオ設定, 74 ページ
- 通話の音量を調整する, 76 ページ
- 着信音の音量を調整する, 76 ページ

壁紙の変更

電話機の壁紙を、選択可能ないずれかの壁紙に変更することができます。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [設定 (Preferences)] > [壁紙 (Wallpaper)] を選択します。
- ステップ 3** 壁紙オプションを選択して、次の任意の手順を実行します。
- [プレビュー (Preview)] を押して、電話スクリーンの壁紙を確認します。
 - [設定 (Set)] を押して、壁紙を電話機に適用します。

- [削除 (Delete)] を押して、リストから壁紙を削除します。

ステップ 4 [終了 (Exit)] を押します。

呼出音の変更

手順

- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2 [設定 (Settings)] > [呼出音 (Ringtone)] を選択します。
- ステップ 3 回線を選択します。
- ステップ 4 呼出音のリストをスクロールし、[再生 (Play)] を押してサンプルを聞きます。
- ステップ 5 [設定 (Set)] と [適用 (Apply)] を押すと選択した設定が保存されます。
-

スクリーンの明るさの調整

手順

- ステップ 1 アプリケーション ボタン  を押します。
- ステップ 2 [設定 (Settings)] > [明るさ (Brightness)] を選択します。
- ステップ 3 ナビゲーション クラスタを左に押すと暗くなり、右に押すと明るくなります。
- ステップ 4 [保存 (Save)] を押します。
-

コントラストの調整

Cisco IP Phone 8811 ではコントラストを調整できます。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [設定 (Settings)] > [コントラスト (Contrast)] を選択します。
- ステップ 3** ナビゲーション クラスタを下に押すとコントラストが減り、上に押すと増します。
- ステップ 4** コントラストを設定するには、[保存 (Save)] を押します。
-

フォント サイズの変更

異なるフォント サイズを使用するよう電話機をセットアップできます。フォント サイズを大きくすると、メッセージが途中までしか表示されなくなる場合があります。

フォント サイズは次のラベルに影響します。

- コール スクリーン (発信者名と機能キー ラベル)
- 通話履歴の発信者名
- 電話スクリーンの回線ラベル

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [設定 (Settings)] > [フォント サイズ (Font Size)] を選択します。
- ステップ 3** フォント サイズを選んで、[設定 (Set)] を押します。
- ステップ 4** [終了 (Exit)] を押すと、[設定 (Settings)] ウィンドウに戻ります。
-

電話機の名前の変更

電話機の名前をデフォルト名から変更できます。

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 [設定 (Settings)] > [電話機の名前 (Phone name)] を選択します。
 - ステップ 3 キーパッドを使用して名前を入力します。
 - ステップ 4 [適用 (Apply)] を押します。
 - ステップ 5 [終了 (Exit)] を押します。
-

ヘッドセット フィードバックの調整

ヘッドセットを使用するときには、自分の声がイヤホンから聞こえます。これをヘッドセット側音またはヘッドセットフィードバックといいます。電話機のヘッドセット側音のボリュームを制御することができます。

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2 [設定 (Settings)] > [ヘッドセットの側音 (Headset Sidetone)] を選択します。
 - ステップ 3 特定の設定を選びます。
 - ステップ 4 [戻る (Back)]  を押します。
-

ビデオ設定

ビデオ電話がある場合、設定によってビデオを制御することができます。

ビデオの明るさの調節

手順

- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2 [設定 (Settings)] > [ビデオ (Video)] > [露出 (Exposure)] を選択します。
- ステップ 3 ナビゲーション クラスタを左に押すと暗くなり、右に押すと明るくなります。
- ステップ 4 [保存 (Save)] を押します。

ビデオ帯域幅の調節

ビデオコール中に、ビデオが突然停止したり、音声より遅延してタイムラグが発生する場合があります。通信帯域幅を変更することにより、電話機でのビデオの処理方法を変えることができます。

ビデオの最小帯域幅は 64 kbps です。デフォルトでは、自動帯域幅設定が選択されています。

手順

- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2 [設定 (Settings)] > [ビデオ (Video)] > [帯域幅 (Bandwidth)] を選択します。
- ステップ 3 帯域幅の設定を 1 つ選びます。
- ステップ 4 [保存 (Save)] を押すと、帯域幅が設定されます。

ビデオ コールをコンピュータで表示する

電話スクリーンの代わりにコンピュータ上で、コールのビデオ部分を表示することができます。コールの音声部分は引き続き電話機から聞こえます。

はじめる前に

イーサネット ケーブルを使ってコンピュータを電話機の PC ポートに接続し、Cisco Jabber for Windows にログインします。電話機は、PC で最初のネットワーク インターフェイス カード (NIC1) に接続されている必要があります。

Cisco Jabber for Windows 9.7(5) 以降、および最新バージョンの Cisco メディア サービス インターフェイス (MSI) が必要です。Cisco Jabber for Windows または MSI の最新バージョンを持っていない場合は、管理者にお問い合わせください。ハードウェアとソフトウェアの要件の一覧について

ては、Cisco Jabber for Windows のリリース ノート (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/jabber-windows/products-release-notes-list.html>[英語]) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [設定 (Settings)] > [ビデオ (Video)] を選択します。
- ステップ 3** コンピュータでのビデオ表示を開始または停止するには、[コンピュータ経由のビデオ (Video through computer)] を選択します。
-

通話の音量を調整する

手順

電話機の使用中に [音量 (Volume)]  を右または左に押すと、ハンドセット、ヘッドセット、またはスピーカーフォンの音量を調節できます。

着信音の音量を調整する

手順

電話機を使用していないときに [音量 (Volume)]  の右または左に押すと、着信音量を調節できます。



第 8 章

アクセサリ

- [サポートされるアクセサリ, 77 ページ](#)
- [電話機に関連付けられたアクセサリを表示する, 78 ページ](#)
- [ヘッドセット, 79 ページ](#)
- [Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール, 83 ページ](#)

サポートされるアクセサリ

シスコおよびサードパーティ製の次のアクセサリが電話機でサポートされます。

表 4 : *Cisco IP Phone 8800* シリーズのアクセサリ

アクセサリ	タイプ	Cisco IP Phone						
		8811	8841	8845	8851	8851NR	8861	8865
シスコ製アクセサリ								
Cisco IP Phone 8800 キー拡張 モジュール	追加モジュール	—	—	—	2	2	3	3
第三者製アクセサリ								

アクセサリ	タイプ	Cisco IP Phone						
		8811	8841	8845	8851	8851NR	8861	8865
ヘッドセット	アナログ	X	X	X	X	X	X	X
	アナログワイドバンド	X	X	X	X	X	X	X
	Bluetooth	—	—	X	X	—	X	X
	USB	—	—	—	X	X	X	X
マイクロフォン	外部 PC	—	—	—	—	—	X	X
スピーカー	外部 PC	—	—	—	—	—	X	X

電話機に関連付けられたアクセサリを表示する

ヘッドセットジャック、Bluetooth、またはUSBポートを使用して、電話機に外部ハードウェアを接続できます。アクセサリリストには、アナログヘッドセットがデフォルトで含まれています。このヘッドセットは、ワイドバンドを有効にするように設定できます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。

ステップ 2 次のオプションのいずれかを選択します。

- アクセサリ
- Bluetooth

ステップ 3 (任意) アクセサリを選択して、[詳細の表示 (Show detail)] を押します。

ステップ 4 [終了 (Exit)] を押します。

ヘッドセット

サポートされるヘッドセットの一覧については、http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/uc_endpoints_accessories.htmlを参照してください。

アクティブ コール中にヘッドセットを電話機に差し込むと、オーディオ パスが自動的にヘッドセットに切り替わります。

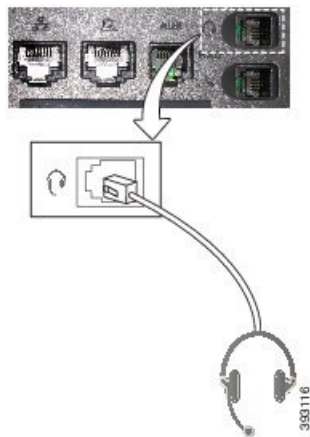
標準ヘッドセット

標準のヘッドセットは、RJ-11 コネクタを使用して電話機の背面に差し込みます。

標準ヘッドセットの接続

手順

電話機背面のジャックにヘッドセットを差し込み、ケーブル チャンネルの中にケーブルを押し込みます。



次の作業

標準のヘッドセットが広帯域オーディオに対応している場合は、[ワイドバンド標準ヘッドセットの設定](#)、(79 ページ) を実行する必要があります。

ワイドバンド標準ヘッドセットの設定

広帯域オーディオに対応するヘッドセットを使用できます。広帯域オーディオでは、ヘッドセットから聞こえる音声の質が改善されます。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [アクセサリ (Accessories)]>[アナログヘッドセット (Analog headset)]>[セットアップ (Setup)] を選択します。
- ステップ 3** [オン (On)] または [オフ (Off)] を押してアナログヘッドセット用ワイドバンドを有効または無効にします。
- ステップ 4** [戻る (Return)]  を押します。
-

USB ヘッドセット

サポートされるヘッドセットの一覧については、http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/uc_endpoints_accessories.html[英語] を参照してください。一覧に含まれない USB ヘッドセットを USB ポートに接続しても正常に機能しない場合があります。詳細については、USB ヘッドセットの製造元が提供するマニュアルを参照してください。

USB ヘッドセットの接続

電話機で USB ヘッドセットを使用するときには、次の点に注意してください。

- 同時に使用できるヘッドセットは1台のみです。最後に接続されたヘッドセットがアクティブヘッドセットとなります。
- アクティブ コール中に USB ヘッドセットを取り外しても、オーディオパスは自動的に変更されません。[スピーカーフォン (Speakerphone)] ボタンを押すか、ハンドセットを持ち上げる必要があります。

USBヘッドセットを差し込んだり、電話機の音量コントロールキーを使って音量を調整したりした場合には、電話機にメッセージが表示されます。

手順

USB ヘッドセットのプラグを電話機の USB ポートに差し込みます。

Bluetooth ヘッドセット

電話機で Bluetooth ヘッドセットを使用するときには、次の点に注意してください。

- Bluetoothヘッドセットと標準ヘッドセットの両方が電話機に接続されている場合、動作するのは常に一方のタイプのヘッドセットだけです。一方のヘッドセットを有効にすると、他方は自動的に無効になります。

- USB ヘッドセットを使用する場合、Bluetooth およびアナログ ヘッドセットはどちらも無効になります。USB ヘッドセットを取り外した場合、Bluetooth ヘッドセットまたは標準ヘッドセットを有効にする必要があります。
- ヘッドセットの最適なカバレッジを確保するには、Bluetooth ヘッドセットを電話機から 3 m (10 フィート) 以内の範囲で使用してください。
- 電話機は、Bluetooth ハンズフリープロファイルをサポートしています。Bluetooth ヘッドセットでサポートされている場合、次の機能を Bluetooth ヘッドセットから実行できます。
 - コールの応答 (Answer a call)
 - コールの終了 (End a call)
 - ヘッドセットのコールの音量を変更する
 - リダイヤル (Redial)
 - 発信者 ID (Caller ID)
 - 却下 (Reject)
 - 転送 (Divert)
 - 保留して許可 (Hold and Accept)
 - リリースして許可 (Release and Accept)

詳細については、Bluetooth ヘッドセットの製造元から提供されたマニュアルを参照してください。

関連トピック

[Bluetooth と電話機](#), (17 ページ)

[Cisco IP Phone 8800 シリーズ](#), (1 ページ)

[ペアリングされた Bluetooth デバイスの表示](#), (50 ページ)

Bluetooth をオンまたはオフにする

Bluetooth がアクティブの場合、Bluetooth アイコン  が電話スクリーンのヘッダーに表示されます。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
 - ステップ 2** [Bluetooth] を選択します。
 - ステップ 3** [オン (On)] または [オフ (Off)] を押します。
-

Bluetooth ヘッドセットの追加

手順

-
- ステップ 1** Bluetooth ヘッドセットを検出可能にします。
- ステップ 2** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 3** [Bluetooth] > [Bluetooth アクセサリの追加 (Add Bluetooth accessory)] を選択します。
電話機が、検出可能なサポート対象アクセサリを検索します。検出されたアクセサリは、[Bluetooth アクセサリの追加中 (Adding Bluetooth Accessory)] 画面のリストに追加されます。
- ステップ 4** ヘッドセットを選択し、[接続 (Connect)] を押します。
電話機では、Bluetooth デバイスの PIN 「0000」 “”を使用して、アクセサリへの接続を自動的に試行します。異なる PIN がアクセサリで必要とされる場合は、[PIN の追加 (Adding PIN)] 画面が表示されます。
- ステップ 5** (任意) 必要に応じて、アクセサリの PIN を入力してください。
-

Bluetooth ヘッドセットの切断

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** Bluetooth ヘッドセットを選択します。
- ステップ 3** [切断 (Disconnect)] を押します。
-

Bluetooth ヘッドセットの削除

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** Bluetooth ヘッドセットを選択して、[削除 (Delete)] を押します。
-

Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール

Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールを使用すると、電話機にライン アピアランスまたはプログラム可能ボタンを追加できます。[プログラム可能な機能ボタン (Programmable feature buttons)] は、電話回線ボタン、短縮ダイヤル ボタンまたは電話機能ボタンとして設定できます。

表 5: キー拡張モジュール サポート

Cisco IP Phone モデル	サポートされるキー拡張モジュールの数
8851 および 8851NR	2 つのキー拡張モジュール、72 回線またはボタン
8861 および 8865	3 つのキー拡張モジュール、108 回線またはボタン

複数のキー拡張モジュールを電話機に取り付けた場合、電話機に取り付けられた順序に従ってそれらに番号が割り当てられます。次に例を示します。

- キー拡張モジュール 1 は電話機の最も近くにある装置です。
- キー拡張モジュール 2 は中央にある装置です。
- キー拡張モジュール 3 は電話機から最も遠い装置です。

図 3: Cisco IP Phone 8861 および 3 つの Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール



注意

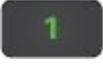
電話機の側面にあるスロットは、キー拡張モジュールのスプライン コネクタ専用です。その他の装置を挿入したままにすると、電話機が損傷します。

Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール ボタンとハードウェア

Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールには、次の機能があります。



	LCD スクリーン：電話番号、短縮ダイヤル番号（または名前などのテキスト ラベル）、電話機サービス、電話機の機能、または各ボタンに割り当てられたプライバシーが表示されます。 回線ステータスを示すアイコンの外観と機能は、キー拡張モジュールが接続されている電話機のアイコンと似ています。
1	ライト付きボタン：18 個の回線ボタン。モードに応じて、各ボタンまたはボタン ペアが1つの回線に対応します（電話機の場合と同じです）。詳しくは、この表の後にある1列および2列モードの説明を参照してください。各ボタンの下のライトは、対応する回線の状態を次のように示します。 ●  消灯：回線が使用可能、または非アクティブ ページでコールが鳴っている。 ●  緑色に点灯：このユーザが回線を使用中、または保留中のコールあり、またはコールを転送中 ●  赤色に点灯：他のユーザが回線を使用中、または他のユーザがコールを保留中（共有回線の場合）。 ●  オレンジ色に点灯：回線が鳴っている。

2	シフト ボタン：2つのボタンがあります。各ボタンは、18 個の回線キーがある 1 つのページに対応しています。最初のページのボタンには番号 1、第 2 ページのボタンには番号 2 のラベルが付きます。各ボタンのライトは、ページの状態を次のように示します。  緑色に点灯：ページを表示中。  消灯：ページが非表示。  オレンジ色に点灯：ページが非表示で、ページ上にアラート状態のコールが 1 つ以上ある。  赤色に点灯：ページが表示され、ページ上にアラート状態のコールが 1 つ以上ある。
---	---

1 列または 2 列モードでキー拡張モジュールを表示するよう、管理者が設定します。

1 列モード

1 列モードでは、表示されている各行が 1 つの回線に対応します。この回線には、左側または右側のどちらのボタンからでもアクセスできます。この設定では、キー拡張モジュールのページ 1 に 9 回線、ページ 2 に 9 回線が表示されます。

図 4：キー拡張モジュール（1 列の場合）



2列モード

2列モードでは、スクリーンの左側と右側にある各ボタンがそれぞれ異なる回線に割り当てられます。この設定では、キー拡張モジュールのページ1に18回線、ページ2に18回線が表示されます。

図 5: キー拡張モジュール（2列の場合）



キー拡張モジュールでのコールの発信

手順

-
- ステップ 1** キー拡張モジュールで、回線ボタンを押します。
- ステップ 2** 電話番号をダイヤルします。
-

キー拡張モジュール画面の明るさの調整

手順

-
- ステップ 1** 電話機で [アプリケーション (Applications)] ボタン  を押します。
- ステップ 2** [設定 (Settings)] > [明るさ (Brightness)] > [明るさ-キー拡張モジュール x (Brightness - Key expansion module x)] を選択します (x はキー拡張モジュールの番号) 。
- ステップ 3** 明るくするにはナビゲーションパッドの右矢印を押します。暗くするにはナビゲーションパッドの左矢印を押します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] を押します。
-



第 9 章

製品の安全性とセキュリティ

- [安全性とパフォーマンスに関する情報, 89 ページ](#)
- [FCC 準拠宣言, 91 ページ](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要, 91 ページ](#)
- [重要なオンライン情報, 92 ページ](#)

安全性とパフォーマンスに関する情報

停電

電話機を経由して緊急サービスにアクセスするには、その電話機が電力を受信する必要があります。停電が発生した場合、電源が復旧するまでは、電話サービスおよび緊急コール サービス ダイヤルが機能しません。電源の異常および障害が発生した場合は、装置をリセットまたは再設定してから、電話サービスおよび緊急コール サービス ダイヤルを利用する必要があります。

外部デバイス

不要な無線周波数（RF）信号および可聴周波数（AF）信号を遮断する高品質の外部デバイスを使用することをお勧めします。外部デバイスには、ヘッドセット、ケーブル、コネクタが含まれます。

これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。その場合は、次の方法で対処することをお勧めします。

- RF または AF の信号源から外部デバイスを離す。
- RF または AF の信号源から外部デバイスのケーブルの経路を離す。
- 外部デバイス用にシールドされたケーブルを使用するか、シールドおよびコネクタが高品質のケーブルを使用する。

- 外部デバイスのケーブルを短くする。
- 外部デバイスのケーブルに、フェライトまたは同様のデバイスを適用する。

シスコでは、外部デバイス、ケーブル、およびコネクタのパフォーマンスを保証できません。



注意

欧州連合諸国では、EMC Directive (89/336/EC) に完全に準拠した外部スピーカー、マイクロフォン、ヘッドセットだけを使用してください。

Bluetooth 無線ヘッドセットのパフォーマンス

ヘッドセットが Bluetooth に対応している場合、Cisco IP Phone は Bluetooth Class 2 テクノロジーをサポートします。Bluetooth では、30 フィート (10 m) 以内の範囲の低帯域幅でワイヤレス接続を行えます。最大のパフォーマンスが得られるのは、1 ～ 2 m (3 ～ 6 フィート) の範囲内です。ヘッドセットは 5 個まで接続できますが、最後に接続されたヘッドセットだけがデフォルトとして使用されます。

混信する可能性があるため、802.11b/g デバイス、Bluetooth デバイス、電子レンジ、大きな金属物をワイヤレス ヘッドセットから遠ざけてことをお勧めします。

Bluetooth ワイヤレスヘッドセットを、電話機から直接見える場所で使用する必要はありません。ただし、壁やドアなどの障害物や、他の電子機器からの干渉により、接続が影響を受けることがあります。

電源について

イーサネット ケーブルを使って電話機を LAN に接続することにより、電話機的全機能が使用可能になります。イーサネット ポートに Power over Ethernet (PoE) が装備されている場合、電話機の電源を LAN ポートから供給することができます。LAN イーサネット ケーブルは建物の外部まで延長しないでください。

ネットワーク輻輳時の電話機の挙動 (Phone Behavior During Times of Network Congestion)

ネットワーク パフォーマンスの低下の原因となるものは、Cisco IP Phone の音声とビデオの品質にも影響を及ぼすため、場合によっては、コールがドロップする可能性があります。ネットワーク パフォーマンスの低下は、次のような原因が考えられます。

- 内部ポート スキャンやセキュリティ スキャンなどの管理タスク
- サービス拒否攻撃など、ネットワーク上で発生した攻撃

FCC 準拠宣言

連邦通信委員会（FCC）は、次の項目に関する準拠宣言を義務付けています。

FCC Part 15.21 に関する宣言

装置に対し、準拠に責任を負う関係者によって明示的に承認されていない変更または修正を加えると、ユーザがこの装置を使用する権利は無効になります。

FCC RF 被曝に関する宣言

本機器は、制御されていない環境に対して規定された FCC 被曝制限に準拠しています。エンドユーザは、特定の操作指示に従い、RF 被曝に関する準拠事項を満たす必要があります。このトランスミッタは、ユーザから 20 cm 以上離して使用する必要があり、他のアンテナまたはトランスミッタと同じ場所に配置したり、同時に操作したりすることはできません。

FCC レシーバおよびクラス B デジタル装置に関する宣言

この製品はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定されたクラス B デジタル装置の仕様に準拠しています。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。

装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合、装置のオン/オフを切り替えると干渉を確認できます。その場合は、次の方法で干渉が起きないようにしてください。

- 受信アンテナの方向または場所を変更する。
- 装置間の間隔を大きくする。
- レシーバ以外のコンセントにその装置を接続する。
- 販売店または経験豊富なラジオまたは TV 技術者に支援を要請する。

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国の法律の対象となります。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意したものと見なされます。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、<http://www.bis.doc.gov/policiesandregulations/ear/index.htm> [英語] をご覧ください。

重要なオンライン情報

エンド ユーザ ライセンス 契約書

エンド ユーザ ライセンス 契約書（EULA）は次の場所にあります。 <http://www.cisco.com/go/eula>

『Regulatory Compliance and Safety Information』

Regulatory Compliance and Safety Information（RCSI）は次の場所にあります。 http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cuipph/all_models/regulatory_compliance/english/install/guide/iphrcsi3.html [英語]